

画譜・書画帖の装訂— 物質性から日本漢詩文を考える



山本嘉孝(国文学研究資料館)



閑酌吳姬側
樽解暗香不
嫌春夜冷
還月
照新粧
榮春樵

竹堂道人

紀竹堂『竹堂画譜二篇』
(文化十二年<1815>刊、
メトロポリタン美術館蔵)
<https://www.metmuseum.org/art/collection/search/78780>

発表者の問題意識：日本において
漢詩文はどのように広がったのか。

1. 漢詩文の物質性
2. 粉本・画譜・書画帖の装訂
3. 書画帖と漢詩文生成の場

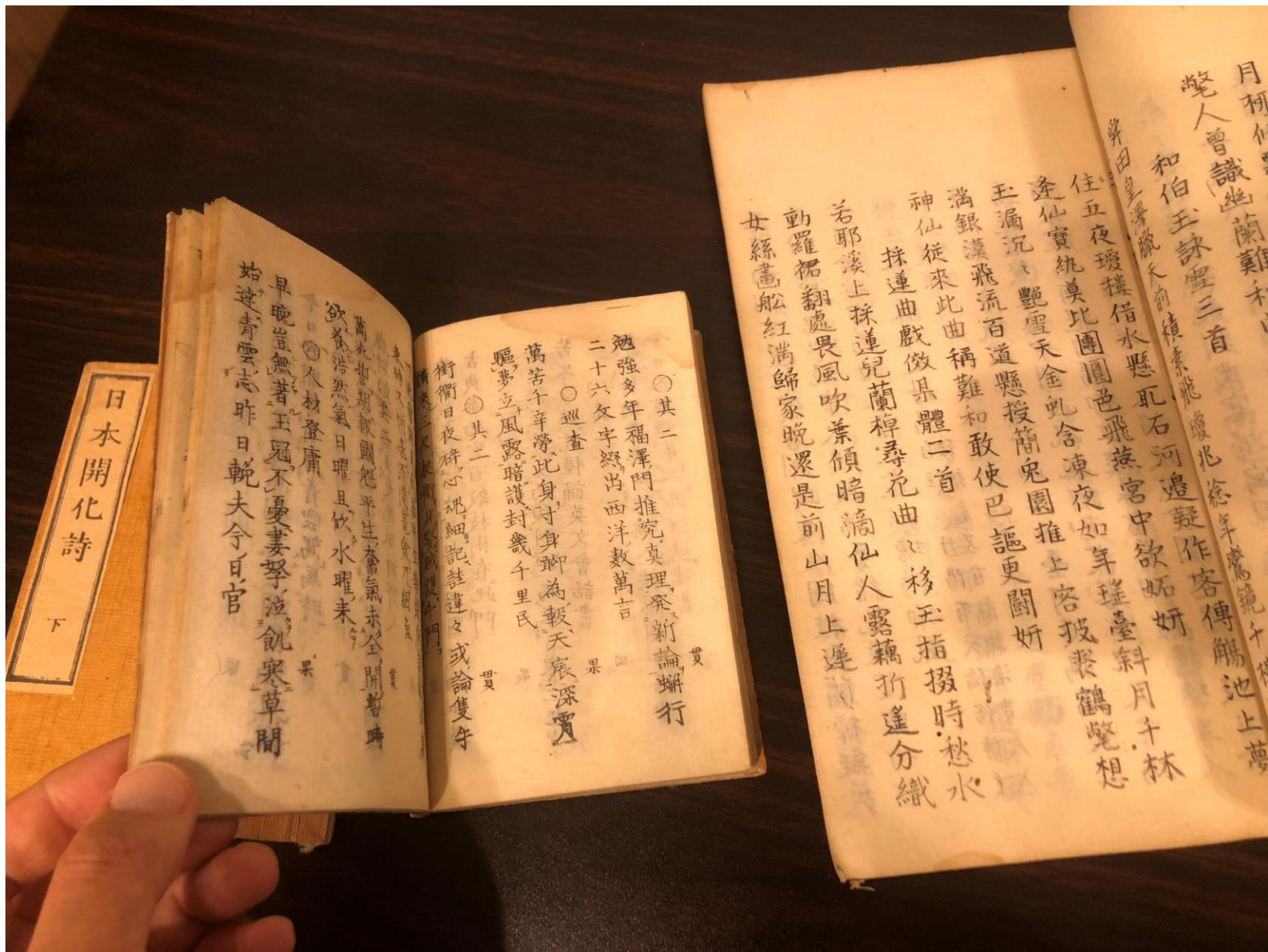


1. 漢詩文の物質性



【右】新井白石『白石餘稿』(転写本、寛政二年<1790>書写、1冊、27.3x19.8cm、架蔵、発表者撮影)

【左】平山果・宮内貫一『日本開化詩』(刊本、明治九年<1876>刊、2冊、14.7x11.0cm、架蔵、発表者撮影)



【右】新井白石『白石餘稿』(転写本、寛政二年<1790>書写、1冊、27.3x19.8cm、架蔵、発表者撮影)

【左】平山果・宮内貫一『日本開化詩』(刊本、明治九年<1876>刊、2冊、14.7x11.0cm、架蔵、発表者撮影)

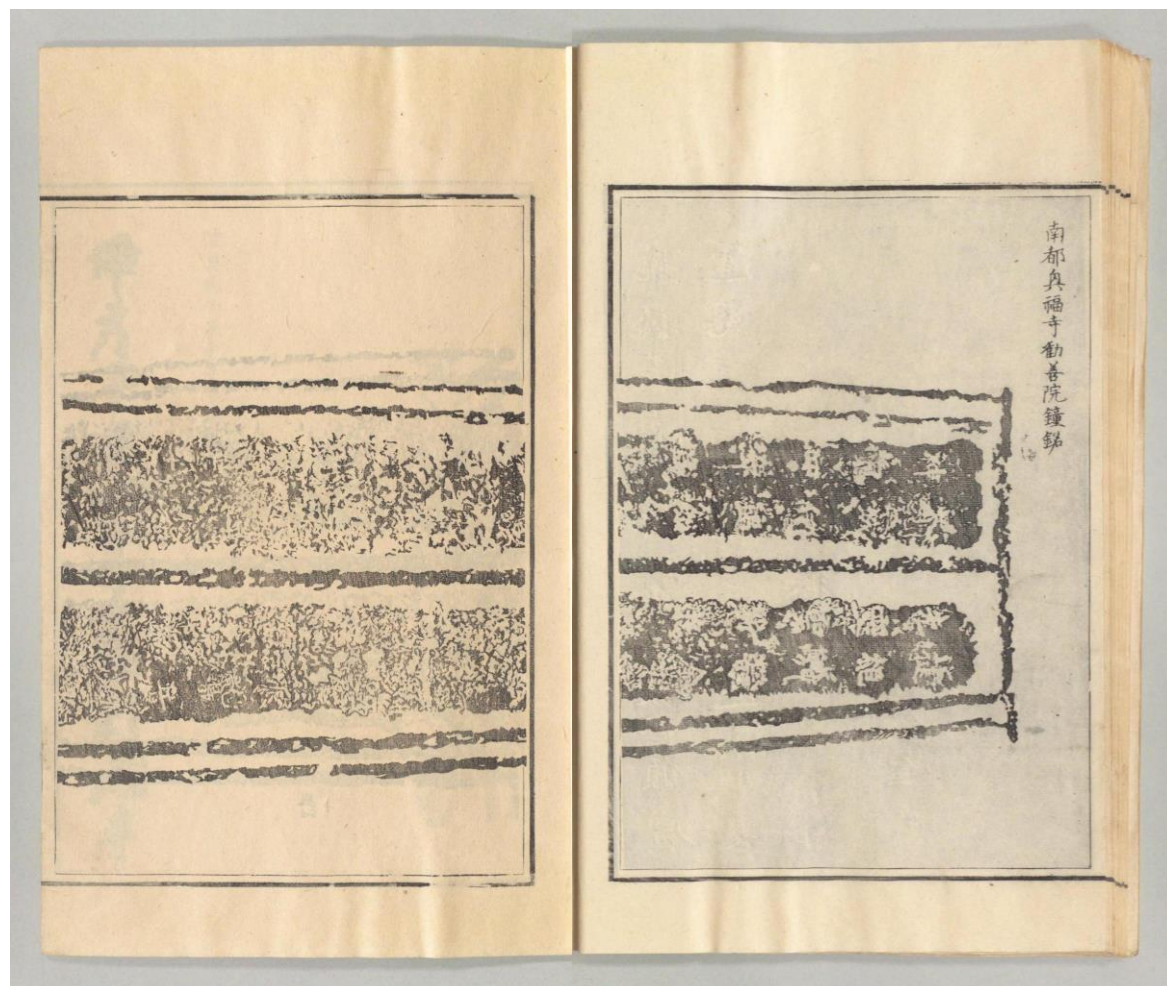
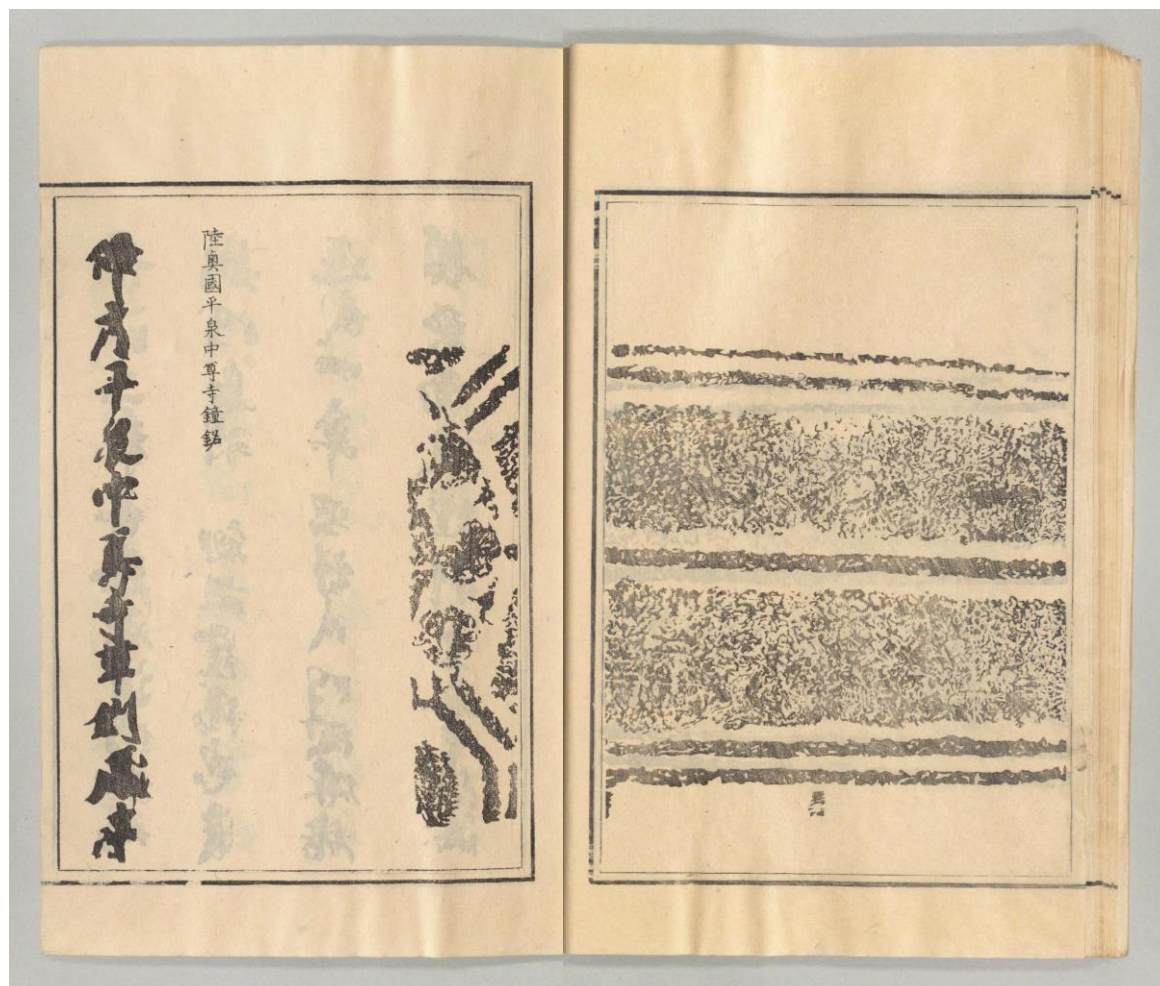


「上方には12行、82字からなる文亀元年の紀年銘をもつ陰刻銘を記し、本品がもと、「対馬国佐護郡観音堂」の鐘であったことが知られる。〔中略〕対馬という日鮮の文化が交差する地で制作された特異な形式の遺例である。」

銘文 側面線刻「守護平朝臣宗形部少輔材盛／寿算保延子孫繁昌國土豊饒／對島國佐護郡／観音堂／奉寄進鐘壺器／文亀元年辛酉七月吉日／願主平朝臣宗右馬大夫貞経／子孫富貴／鑄物師大工／花田藤左衛門／吉次／小工二人」

出典：ColBase (https://colbase.nich.go.jp/collection_items/narahaku/847-0?locale=ja)

「梵鐘」(室町時代・文亀元年〈1501〉、奈良国立博物館蔵、機関管理番号847-0、高54.6cm 口径31.8cm、出典：ColBase
https://colbase.nich.go.jp/collection_items/narahaku/847-0?locale=ja)



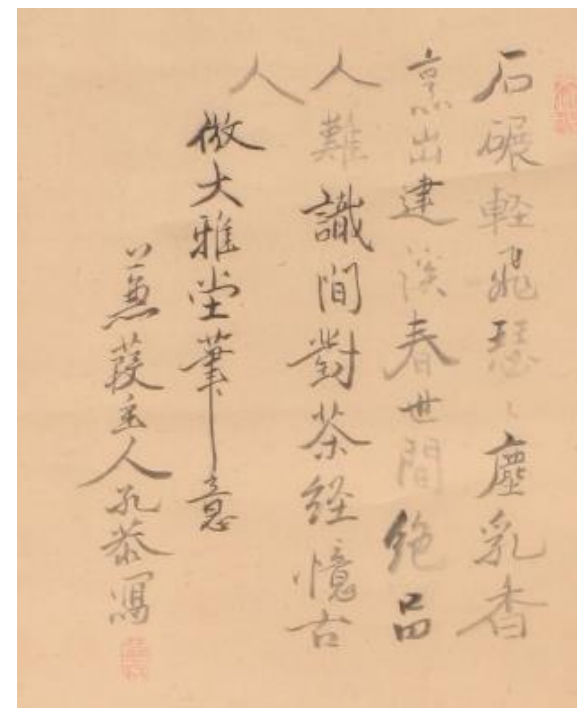
『集古十種』鐘銘四(国立国会図書館蔵)

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1881095/1/24>



山本北山墓碑
(日蓮宗 信弘山 本念寺、
東京都文京区白山4-34-7、
2011年10月8日発表者撮
影)

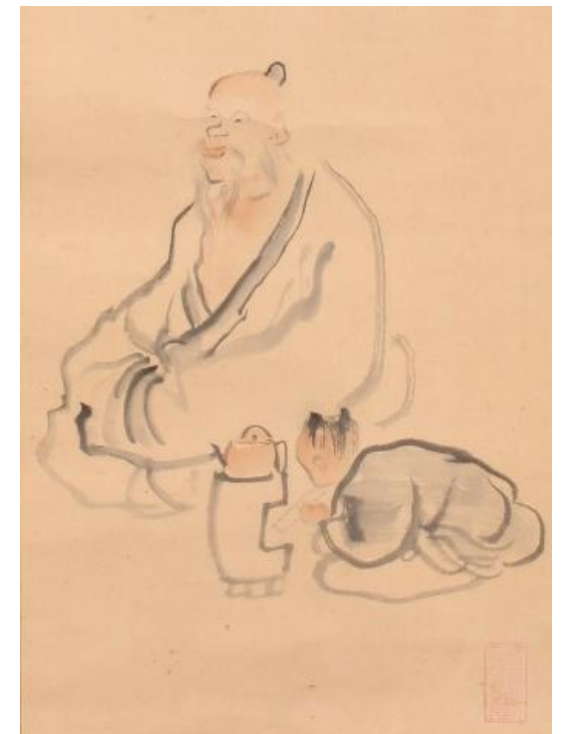
* 墓碑銘は文化九年
(1812)九月亀田鵬斎撰。

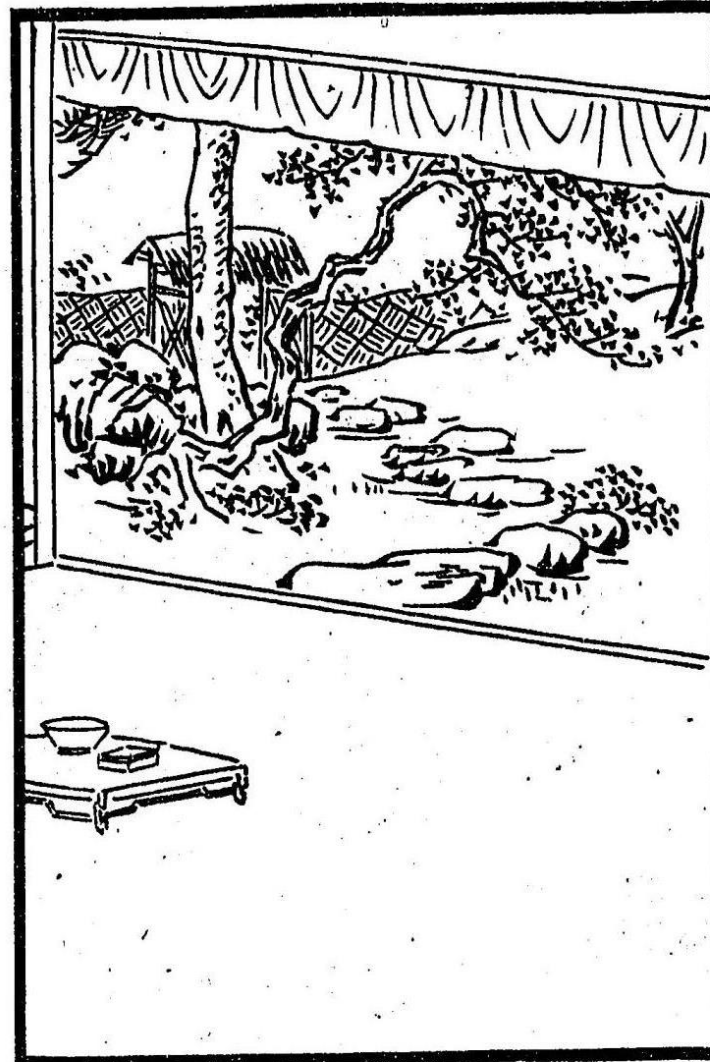
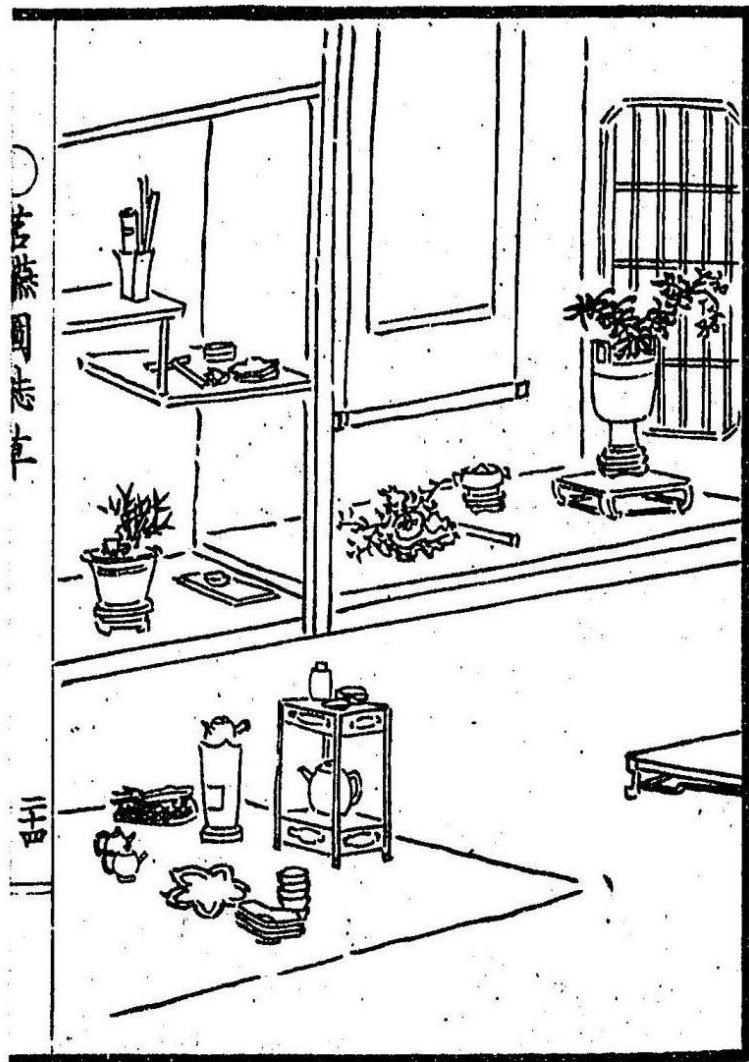


(拡大図)

木村兼葭堂(書画)「兼葭堂煎茶圖」
 (〔江戸時代中期〕、94.5x25.8cm、
 関西大学東アジアデジタルアーカイブ
<https://www.iiif.ku-orcas.kansai-u.ac.jp/books/202955583>)

* 詩は林逋(林和靖)「茶」。





『青湾茗譚図誌』草・第七席(明治九年
 (1876)刊、国立国会図書館蔵)

<https://dl.ndl.go.jp/pid/851037/1/26>



(拡大図)



河鍋曉斎〔書画会〕(明治十三年<1880>、221.0x97.5cm、クリーブランド美術館蔵)

<https://www.clevelandart.org/art/1983.88>



鍋木雲潭他「画賛扇面」(国文学
研究資料館蔵、北野克旧蔵書画、
請求記号 58-91、国書データ
ベース)

<https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/200040655/1?ln=ja>



野呂元文「呂元文漢詩」(国文学
研究資料館蔵、北野克旧蔵書画、
請求記号 58-386、国書データ
ベース

<https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/200040809/1?ln=ja>

* 詩は、長崎の唐通事何心声が肥前鹿島藩主鍋島直條(1655～1705)に呈したもの。

* 「国文研 千年の旅」読売新聞多摩版連載(入口敦志執筆、2021年5月19日掲載)参照。

<https://www.nijl.ac.jp/koten/kokubun1000/1000iriguchi4.html>

『詩文／巻頭正月十四日雪』
(国文学研究資料館蔵、請求記号 65-8、卷子装、国書データベース)

<https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/200040252/16?ln=ja>

君王有意高章擲
仰見至仁動下情
不覺乘波尋格謁
何堪德海感猶清
侍看月白常無盡
坐對松青亦可盟
從此難忘流水曲
琴童莫睡聽秋聲

一个禿民幸治

恩厚之深威銘五内歸鄉

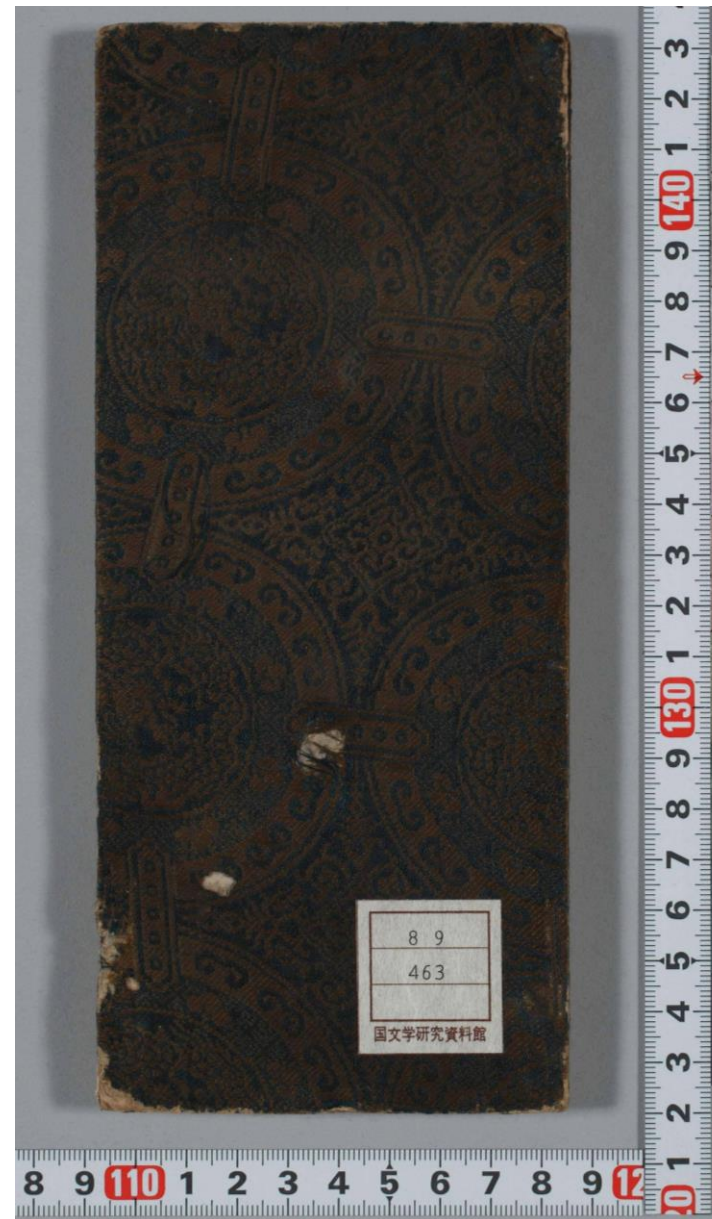
生色奉和

尊韻慰

呈

卜世崎陽心聲具稿





文徵明(書)『聖主得賢臣頌』
(国文学研究資料館高乗勲文
庫蔵、請求記号 89-463、
折本、国書データベース
<https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/200021269/1?ln=ja>)



「書画貼交屏風」(京都国立博物館蔵、
機関管理番号 A甲53、151.3x171.8cm、
出典: ColBase
https://colbase.nich.go.jp/collection_items/kyohaku/A%E7%94%B253?locale=ja)



『三砭亭集書画帖』(文化二年
(1805)序、国文学研究資料館
蔵貴重書、請求記号 99-68、
折帖、36.5x30.5cm、厚さ7.1cm、
国書データベース

<https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/200006200/14?ln=ja>)



頼杏坪(編)『十句花月』乾帖(文政十年<1827>書写、
イェール大学バイネキ稀観書図書館蔵、請求記号
2016 Folio 36、折本2帖、25.7x10.0cm, 27.4x10.1cm)
<https://collections.library.yale.edu/catalog/15790246>

* 桜の画は小田海僊(百谷)、画賛(和歌)は頼杏坪、
月の画は浦上春琴による。

2. 粉本・画譜・書画帖の装訂

2. 粉本・画譜・書画帖の装訂

装訂 そうてい

書物の仕立て方。製本の仕方。**料紙を**一軸・一帖・一冊などの単位に**まとめる**方法。

（長谷川強執筆、『日本古典籍書誌学辞典』354頁）

- ◆紙をどのように折るか、折らないか
 - ◆糊をどのように使うか、使わないか
 - ◆糸などでどのように綴じるか、綴じないか
- 紙のまとめ方

2. 粉本・画譜・書画帖の装訂

粉本(ふんぽん)	画譜(がふ) ★漢詩文	書画帖(しよがじょう) ★漢詩文
- 画稿、模写本、写生帳 - 先祖の残した下絵類や古画などの模写 - 絵師にとって絵画制作に必要不可欠	- 江戸時代の中期以降、特定の絵師や流派、あるいは一定の分類にしたがって編纂した絵画を集録、または、画法を図解した版本を指すことが多い 『八種画譜』『芥子園画伝』などの中国の画譜が、日本の画譜の成立に大きな影響を与えた	- 書と絵、またはそのどちらかを帖仕立てにして装訂されたもの - 書画冊ともいい、中国では宋朝以降盛んに行われた - 個人の書画集と、寄り合い書きのアンソロジーとがある - 古人の書画に加え新作書画を収集・鑑賞することが流行 - 寛政期から数多く刊行される画帖仕立ての画譜や絵本類は、この流れと同調して展開
片桐弥生執筆、『日本古典籍書誌学辞典』511頁	大久保純一執筆、『日本古典籍書誌学辞典』117頁	ロバート キャンベル執筆、『日本古典籍書誌学辞典』304頁

粉本

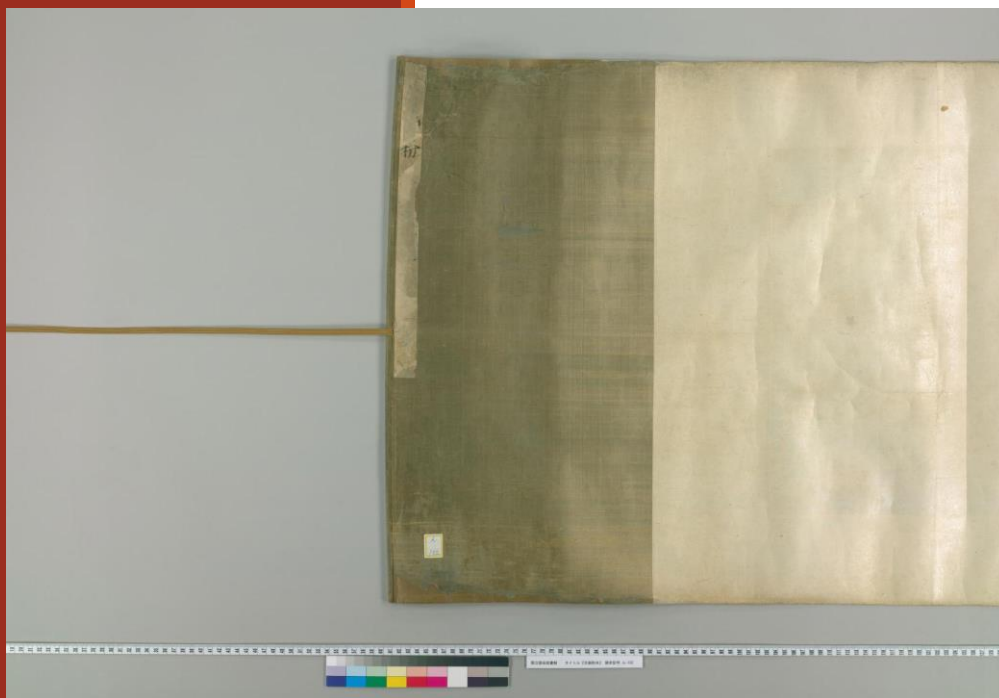
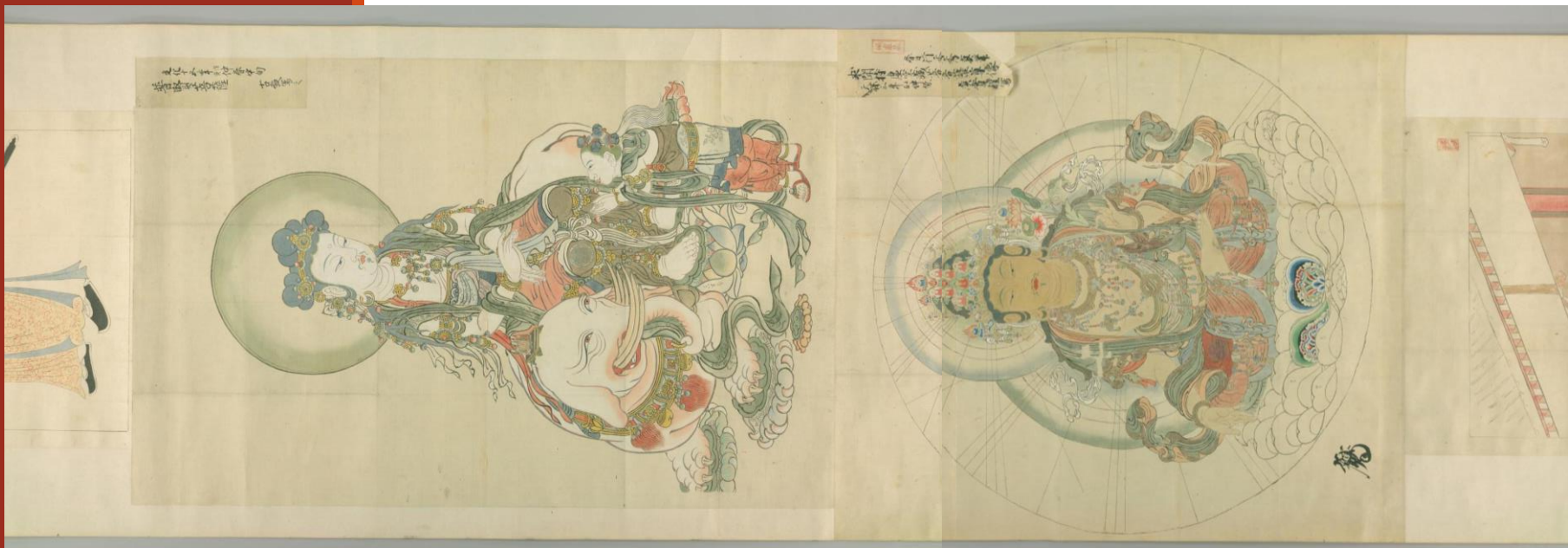
まくり



『下絵』(東京藝術大学大学美術館蔵、麻布一本松狩野家資料、請求記号 AZ331、
国書データベース <https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/100409684/2?ln=ja>)

粉本

卷子装



『古画粉本』(国立国会図書館蔵)
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2542611/1/1>



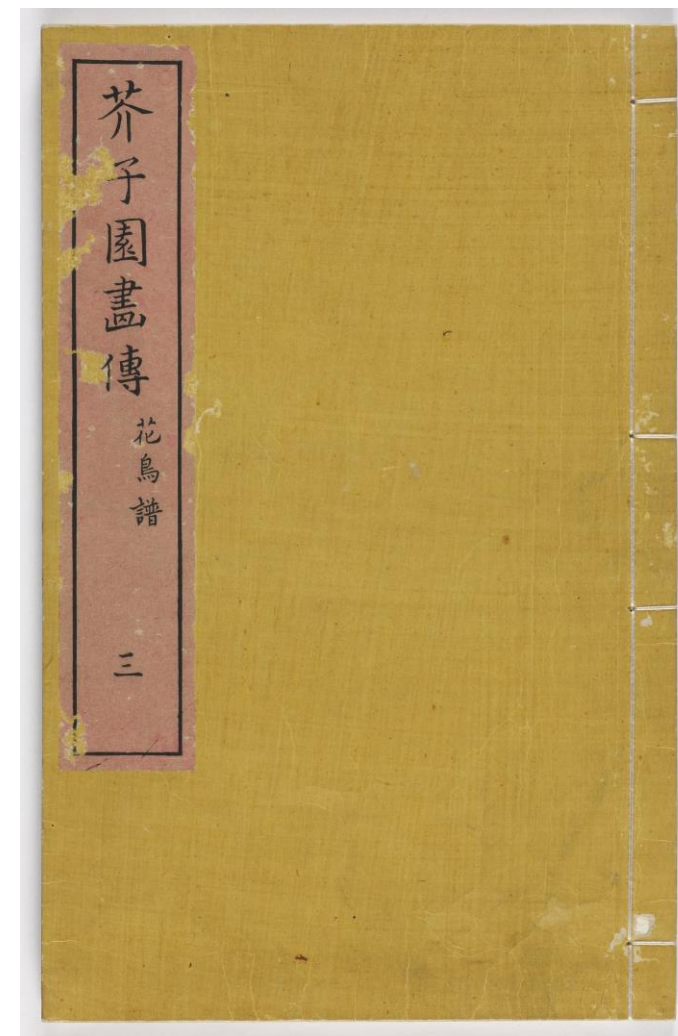
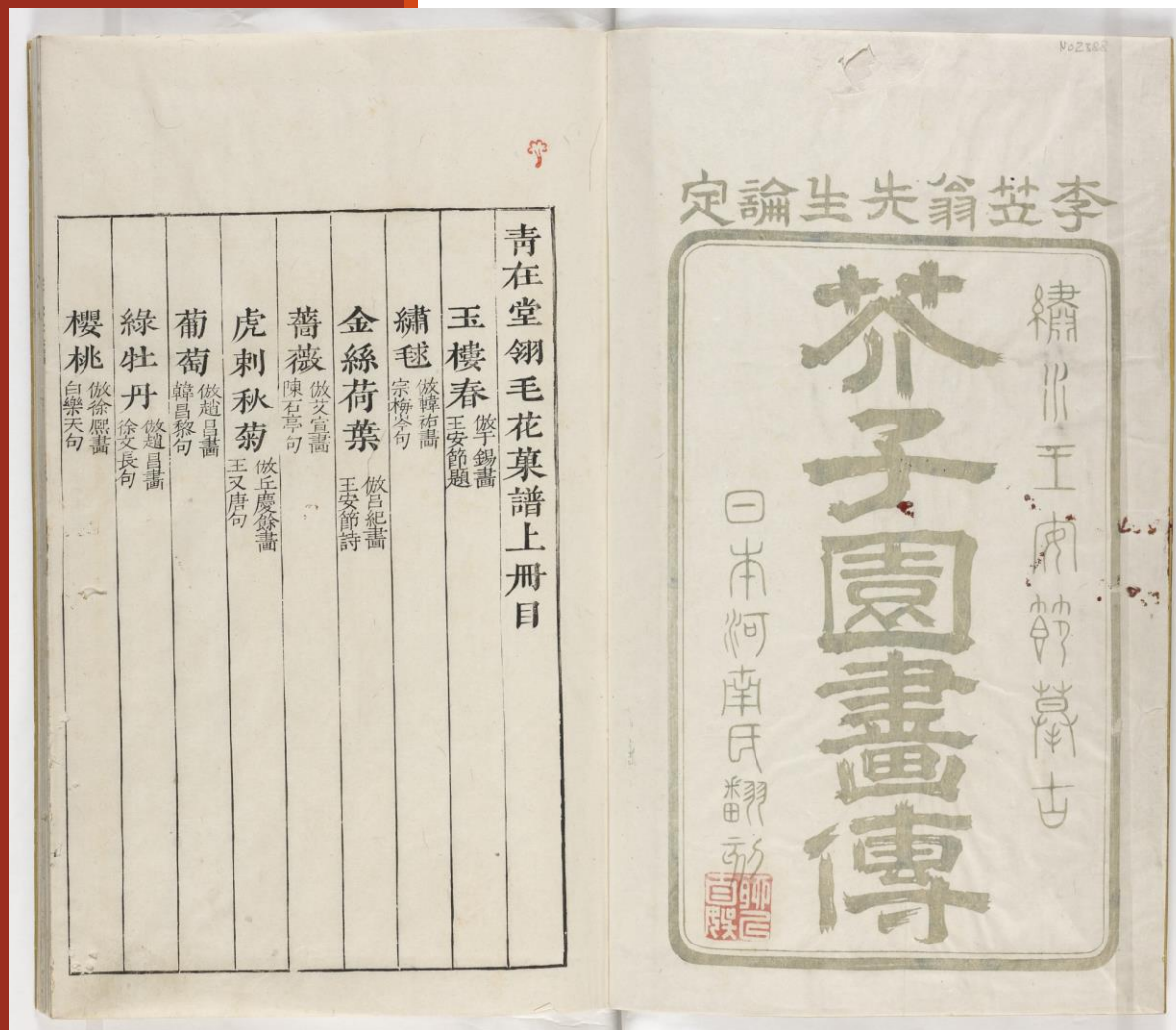
画譜

線装(袋綴装)

和刻本『八種画譜』唐詩五言(宝永七年<1710>刊、国立アジア美術館図書館
(National Museum of Asian Art Library) 蔵、28.1x19.7cm)
<https://library.si.edu/digital-library/book/hasshugafu00huanc>

画譜

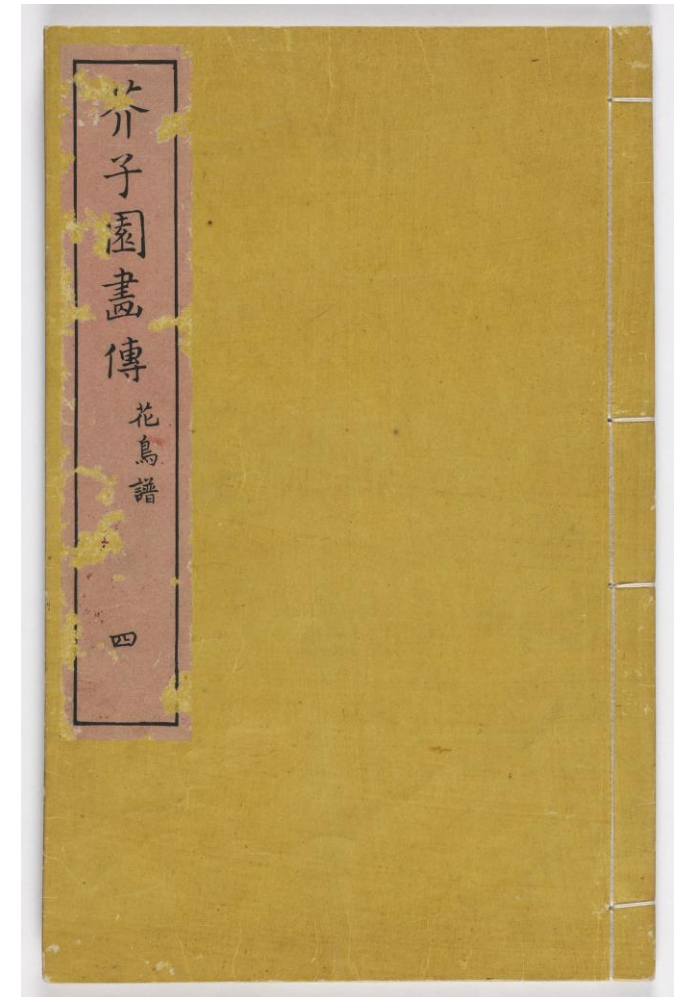
線装(袋綴装)



和刻本『芥子園画伝』(寛延元年<1748>刊、国立アジア美術館 (National Museum of Asian Art) 蔵、28.5x18.3cm)
<https://pulverer.si.edu/node/1127/title/3>
Purchase, The Gerhard Pulverer Collection — Charles Lang Freer Endowment, Friends of the National Museum of Asian Art and the Harold P. Stern Memorial fund in appreciation of Jeffrey P. Cunard and his exemplary service to the Museum as chair of the Board of Trustees (2003-2007)

画譜

線装(袋綴装)



和刻本『芥子園画伝』(寛延元年<1748>刊、国立アジア美術館 (National Museum of Asian Art) 蔵、28.5 x 18.3cm)

<https://pulverer.si.edu/node/1127/title/4> 山茶〔倣易元吉画／蘇東坡句〕

Purchase, The Gerhard Pulverer Collection — Charles Lang Freer Endowment, Friends of the National Museum of Asian Art and the Harold P. Stern Memorial fund in appreciation of Jeffrey P. Cunard and his exemplary service to the Museum as chair of the Board of Trustees (2003-2007)



紅艷霞烘色清芬
雪染苔幽禽棲宿
好餐雪復登霞



紅艷霞烘色

清芬雪染花

幽禽棲宿好

餐雪復餐霞

こうえん かすみ いろ た
紅艷 霞 色を烘き

せいふん ゆき はな そ
清芬 雪 花を染む

いうきんせいしゆく よ
幽禽棲宿して好し

ゆき く ま かすみ く
雪を餐らひて復た霞を餐らふ

和刻本『芥子園画伝』(寛延元年
〈1748〉刊、国立アジア美術館
(National Museum of Asian Art)
蔵)

[https://pulverer.si.edu/node/1127/
title/4/15](https://pulverer.si.edu/node/1127/title/4/15)

山茶〔倣易元吉画／蘇東坡句〕

Purchase, The Gerhard Pulverer
Collection — Charles Lang Freer
Endowment, Friends of the
National Museum of Asian Art and
the Harold P. Stern Memorial fund
in appreciation of Jeffrey P.
Cunard and his exemplary service
to the Museum as chair of the
Board of Trustees (2003-2007)



和刻本『芥子園画伝』(寛延元年<1748>刊、国立アジア美術館 (National Museum of Asian Art) 蔵) <https://pulverer.si.edu/node/1127/title/4/15> 山茶〔倣易元吉画／蘇東坡句〕 Purchase, The Gerhard Pulverer Collection — Charles Lang Freer Endowment, Friends of the National Museum of Asian Art and the Harold P. Stern Memorial fund in appreciation of Jeffrey P. Cunard and his exemplary service to the Museum as chair of the Board of Trustees (2003-2007)



はき除掃してから落る椿かな

歌川広重〔Camellia and Bullfinch〕
(錦絵、天保四年<1833>頃、メトロポリタン美術館蔵、36.8x17.0cm)
<https://www.metmuseum.org/art/collect/search/36739>

画譜＝出版

「さらに画譜は門外不出の粉本や縮図とは異なり、**大量複製**によってイメージや知識の伝播・普及に大きく貢献していた。そのために、画譜の**出版**は作品の権威化・経典化に関わるものであったと考えられるだろう。」

（王紫沁「建部凌岱の画譜にみる来舶清人 — 十八世紀の和製画譜における「中国」のあり方」『総研大文化科学研究』第19号（2023年）、163頁）

画譜

線装(袋綴装)

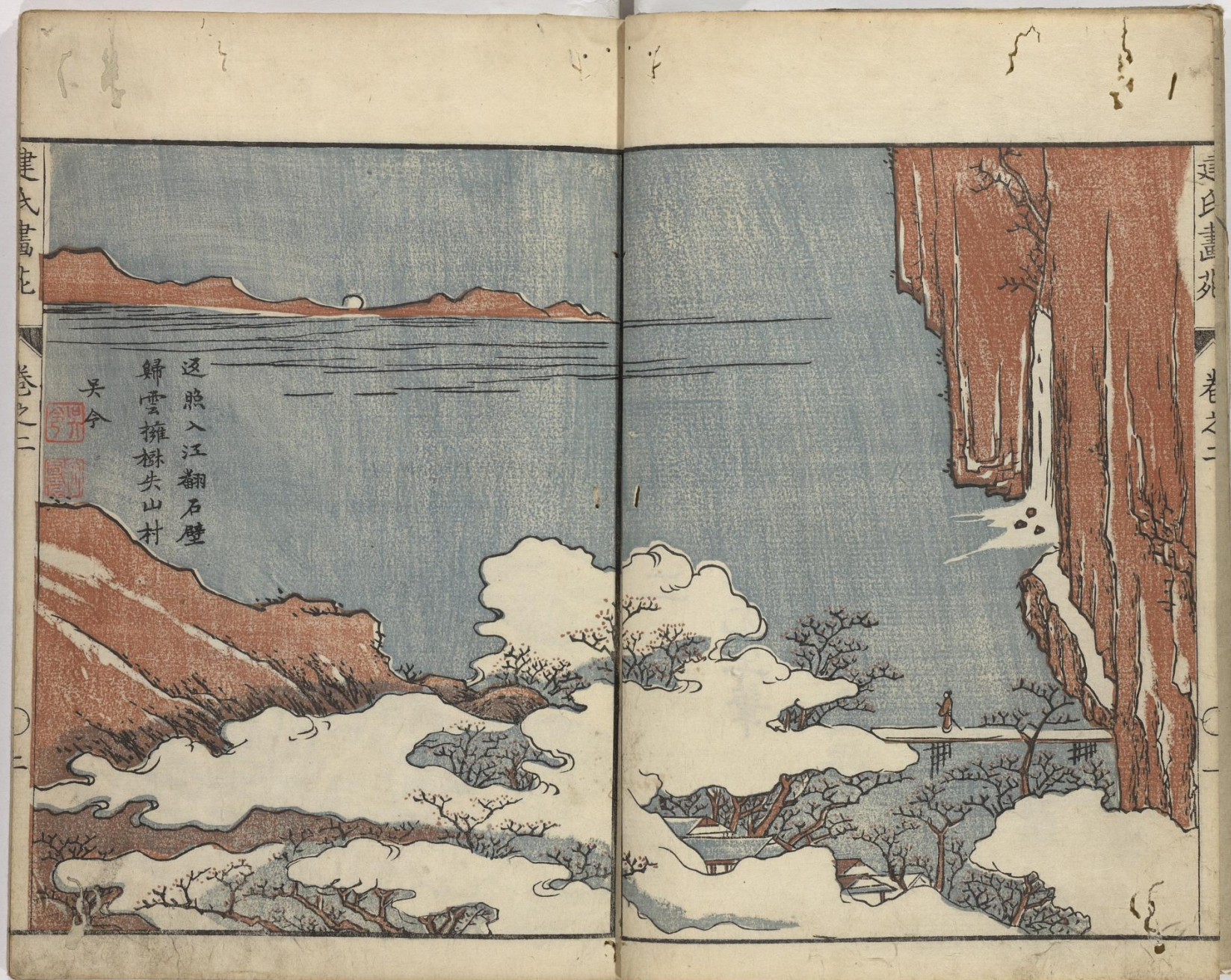


建部綾足『建氏画苑』(安永四年
〈1775〉刊、国立アジア美術館
(National Museum of Asian Art) 蔵、
28.0x19.1cm)

<https://pulverer.si.edu/node/991/title/2/2> Purchase, The Gerhard
Pulverer Collection — Charles Lang
Freer Endowment, Friends of the
National Museum of Asian Art and
the Harold P. Stern Memorial fund in
appreciation of Jeffrey P. Cunard and
his exemplary service to the
Museum as chair of the Board of
Trustees (2003-2007)

返照入江翻石壁
 帰雲擁樹失山村

へんせうかう い せきへき ひるがへ
 返照江に入りて石壁に翻り
 きうんき よう さんそん うしな
 帰雲樹を擁して山村を失ふ

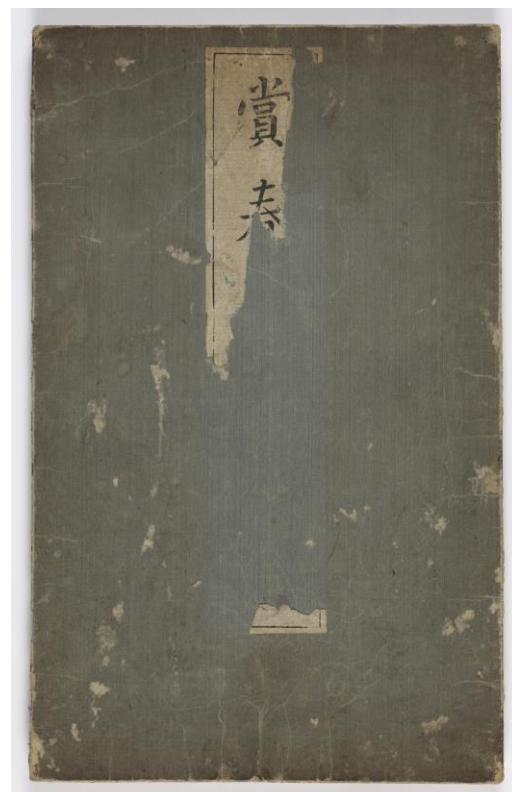
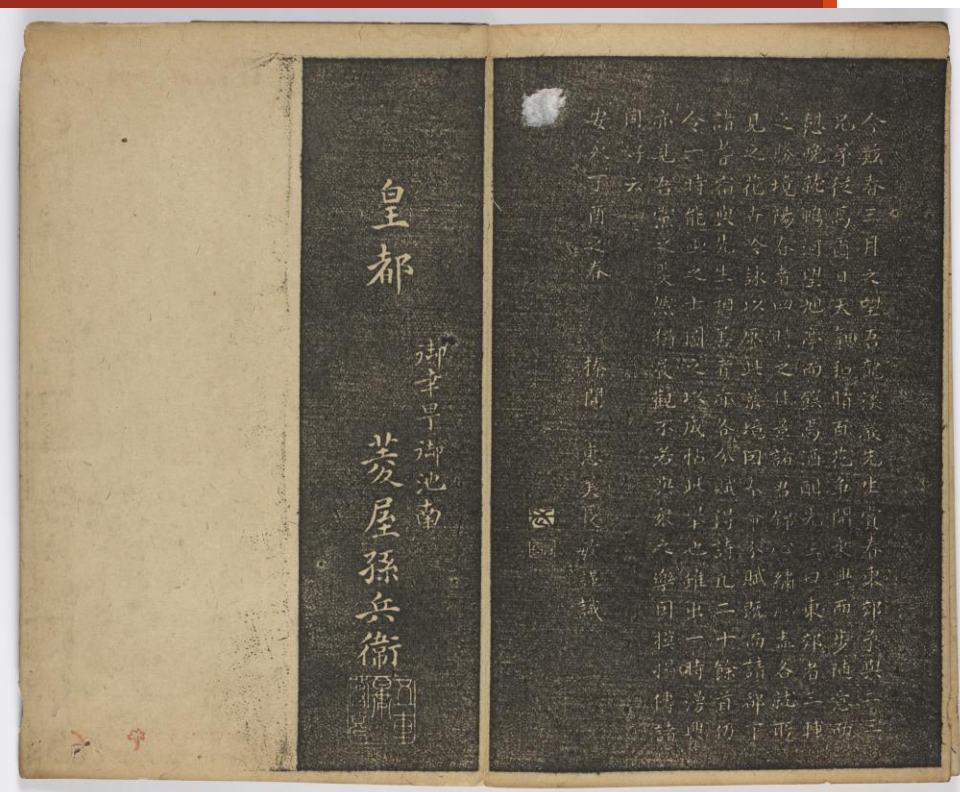


建部綾足『建氏画苑』(安永四年<1775>刊、国立アジア美術館 (National Museum of Asian Art) 蔵)
<https://pulverer.si.edu/node/991/title/2/2>
 Purchase, The Gerhard Pulverer Collection — Charles Lang Freer Endowment, Friends of the National Museum of Asian Art and the Harold P. Stern Memorial fund in appreciation of Jeffrey P. Cunard and his exemplary service to the Museum as chair of the Board of Trustees (2003-2007)

画譜のなかの漢詩

「これだけを見ると七言の二句は、原画の作者たる呉令その人の作に係るように錯覚されるがそうではない。これは『唐詩選』巻五にも収録される有名な杜甫の七律「返照」詩の第二聯なのであった。通常、題画詩というのは、自賛、他賛を問わず、画が出来上がった後に、その画によって掻き立てられた興味や感想を書きつけるものであるが、このような先行する唐宋の詩文を題する場合は、むしろ、その詩文の内容を絵画が具像化することとなる。一種の詩意図ということになるのである。〔中略〕中野三敏氏のご報告では初印本では二丁ウの遠景の夕陽が朱に着色されているとのことである。」

(池澤一郎「画譜の中の漢詩 —『建氏画苑』を中心に」、中野三敏(監修)・河野実(編)『詩歌とイメージ —江戸の版本・一枚摺にみる夢』(勉誠出版、2013年)、154頁)



画譜/書画帖

画帖装

『賞春芳』(安永六年<1777>序刊、国立アジア美術館 (National Museum of Asian Art) 蔵、25.6x15.9cm)

<https://pulverer.si.edu/node/559/title/1>

Purchase, The Gerhard Pulverer Collection — Charles Lang Freer Endowment, Friends of the National Museum of Asian Art and the Harold P. Stern Memorial fund in appreciation of Jeffrey P. Cunard and his exemplary service to the Museum as chair of the Board of Trustees (2003-2007)

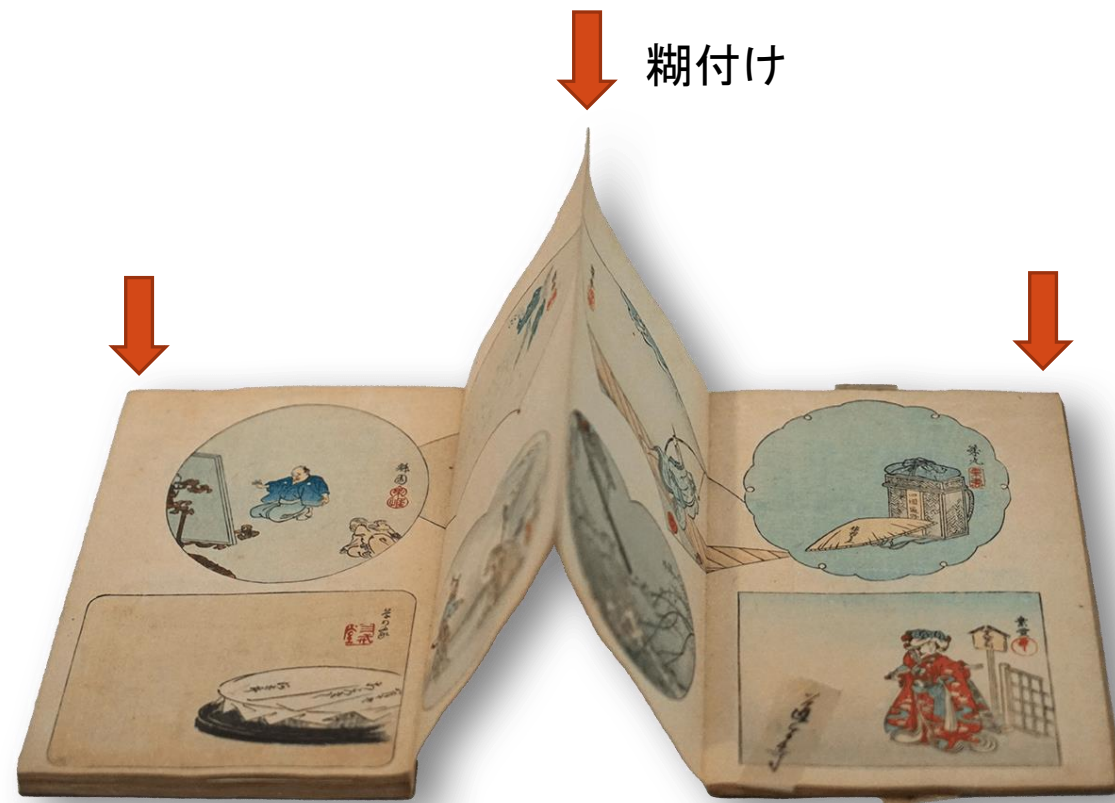
画帖装（がじょうそう）

- ◆二つ折りにした紙を、外側の折り目と反対側の端を糊代として貼り繋いだもの。
- ◆一枚で完結する絵を集める場合などに用いる。
- ◆版本の例が多く、江戸中期以降に考案された装訂か。

（国文学研究資料館 電子展示室「和書のさまざま」、2022年）

<https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/exhibition/1-1/index.html#show/17>

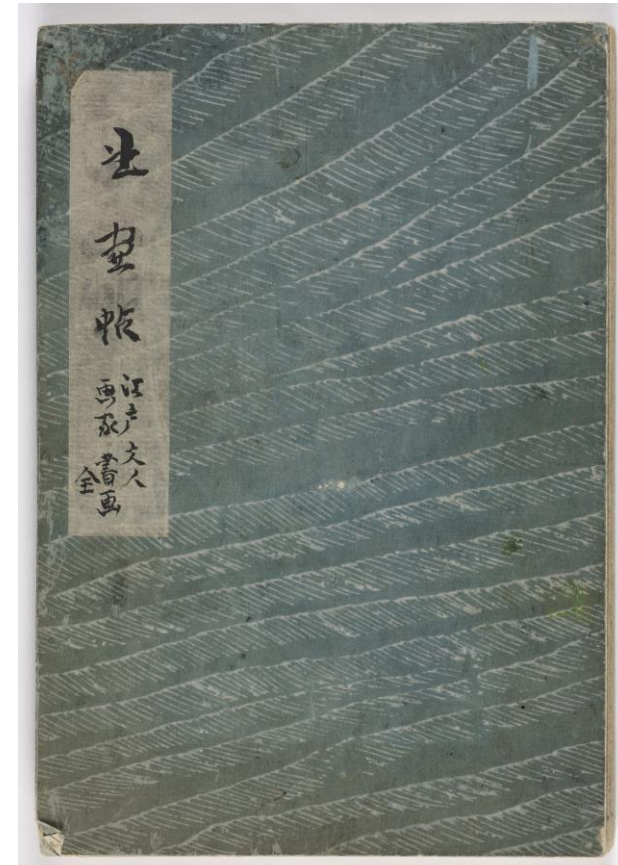
＊『日本古典籍書誌学辞典』では「折帖仕立て」として立項。「画帖仕立て」・「法帖仕立て」ともいうとする。



『端月集』（国文学研究資料館 電子展示室「和書のさまざま」、2022年）
<https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/exhibition/1-1/index.html#show/17>

画譜/書画帖

画帖装



『書画帖』(文政十三年<1830>序刊、国立アジア美術館 (National Museum of Asian Art) 蔵、24.8x17.1cm)
<https://pulverer.si.edu/node/1169/title/1> Purchase, The Gerhard Pulverer Collection — Charles Lang Freer Endowment, Friends of the National Museum of Asian Art and the Harold P. Stern Memorial fund in appreciation of Jeffrey P. Cunard and his exemplary service to the Museum as chair of the Board of Trustees (2003-2007)

* 書名は序題による。画は谷文二、賛は菊池五山。

画帖装



『書画帖』(文政十三年<1830>序刊、国立アジア美術館 (National Museum of Asian Art) 蔵、24.8 x 17.1cm) <https://pulverer.si.edu/node/1169/title/1/4> Purchase, The Gerhard Pulverer Collection — Charles Lang Freer Endowment, Friends of the National Museum of Asian Art and the Harold P. Stern Memorial fund in appreciation of Jeffrey P. Cunard and his exemplary service to the Museum as chair of the Board of Trustees (2003-2007) * 画は谷文二、賛は菊池五山。

線装(袋綴装)

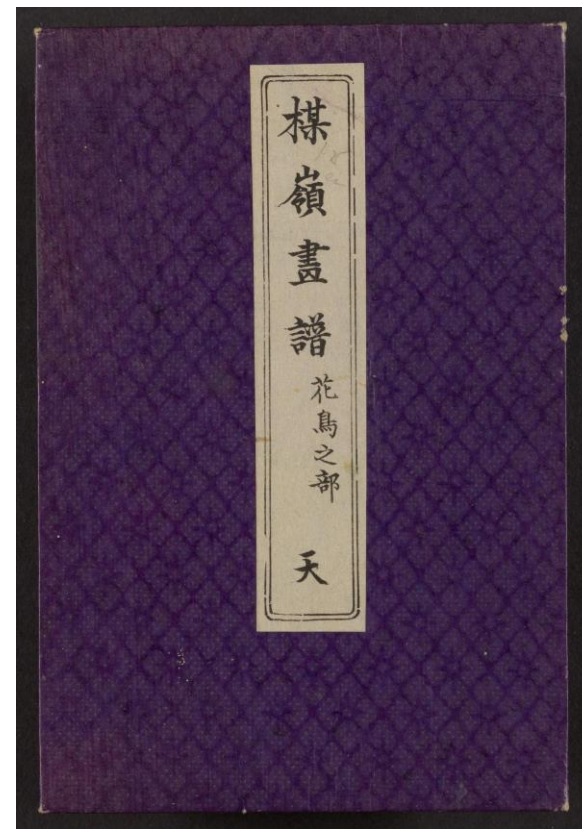


和刻本『芥子園画伝』(寛延元年<1748>刊、国立アジア美術館 (National Museum of Asian Art) 蔵、28.5 x 18.3cm) <https://pulverer.si.edu/node/1127/title/4/3> 牡丹〔倣黄筌画／范景仁句〕 Purchase, The Gerhard Pulverer Collection — Charles Lang Freer Endowment, Friends of the National Museum of Asian Art and the Harold P. Stern Memorial fund in appreciation of Jeffrey P. Cunard and his exemplary service to the Museum as chair of the Board of Trustees (2003-2007)

画譜

固定形旋風葉

(ただし、背の布が破損した部分は
画帖装の形になる)



幸野栞嶺『栞嶺画譜』(明治三十八年<1905>刊、国立アジア美術館図書館 (National Museum of Asian Art Library) 蔵、18.1x12.1cm) 天帖

<https://library.si.edu/digital-library/book/baireigafuv1koyu>

『煤嶺画譜』の形態（発表者撮影写真）

* 発表中にお見せ致します。

（国立アジア美術館 図書館 (National Museum of Asian Art Library) 蔵本）

旋風葉（せんぷうよう）

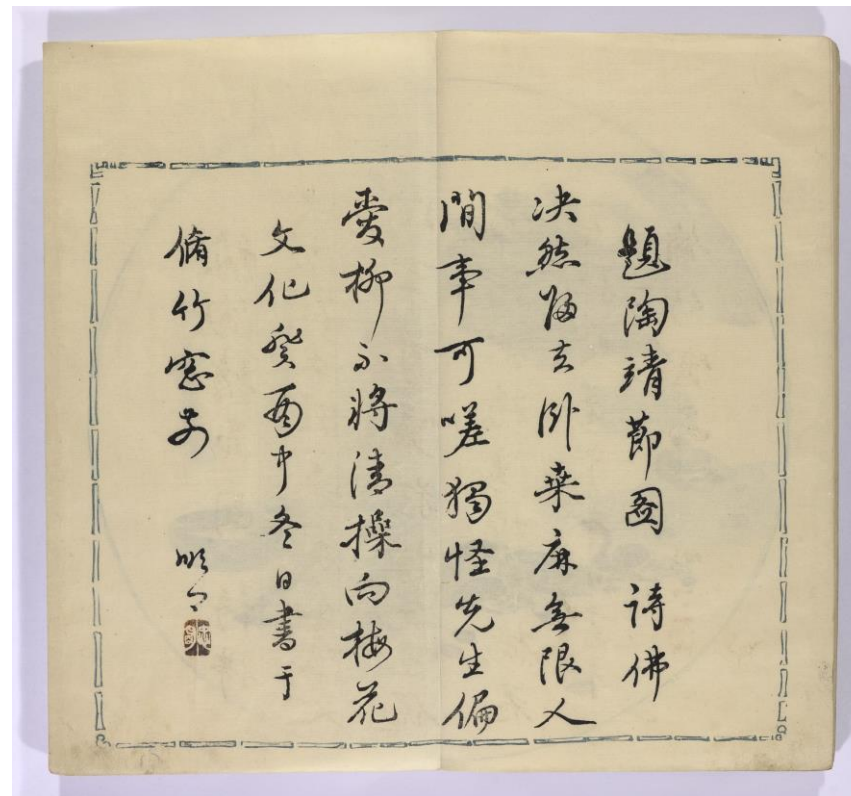
◆背がくるまれた折本・画帖

- 前後と背を一枚の紙（包背表紙）でくるむ場合
- 背に、前後表紙とは別の紙や布を用いる場合

◆料紙を背に糊付けする場合としない場合がある

- 旋風葉の基本形は、料紙を背に糊付けしない形
- 料紙を背に糊付けする形は、「固定形旋風葉」と呼ぶ（藤井隆『日本古典書誌学総説』）

（中村文執筆「旋風葉」、『日本古典籍書誌学辞典』345頁）



画譜/書画帖

旋風葉

五十嵐竹沙『竹沙小品』(文化十年<1813>序刊、国立アジア美術館 (National Museum of Asian Art) 蔵、26.1x14.3cm)

<https://pulverer.si.edu/node/633/title/1/0>

Purchase, The Gerhard Pulverer Collection — Charles Lang Freer Endowment, Friends of the National Museum of Asian Art and the Harold P. Stern Memorial fund in appreciation of Jeffrey P. Cunard and his exemplary service to the Museum as chair of the Board of Trustees (2003-2007)

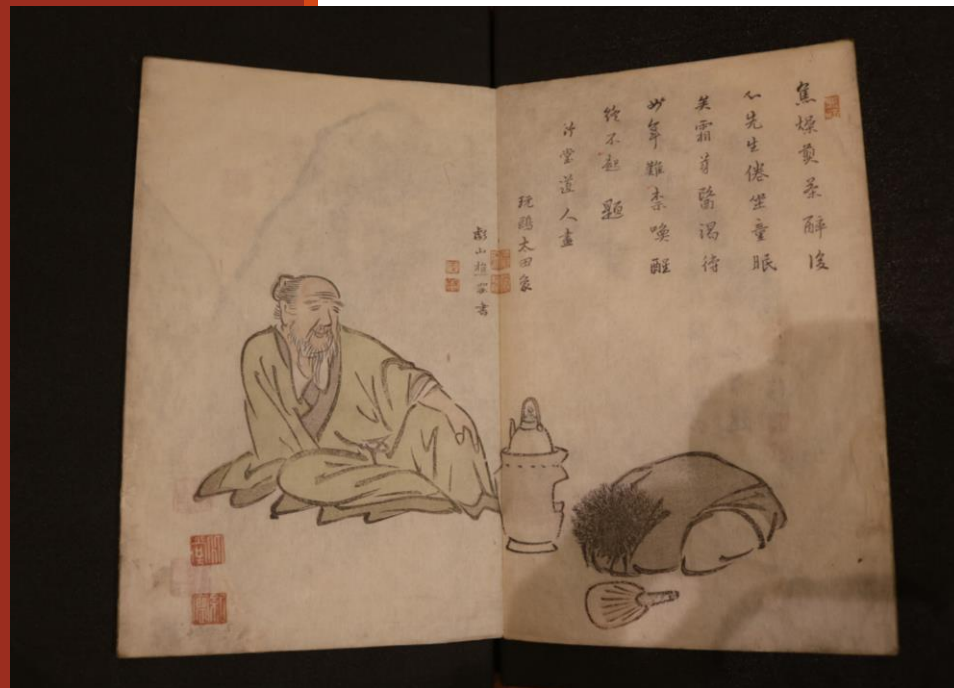
『竹沙小品』の形態（発表者撮影写真）

* 発表中にお見せ致します。

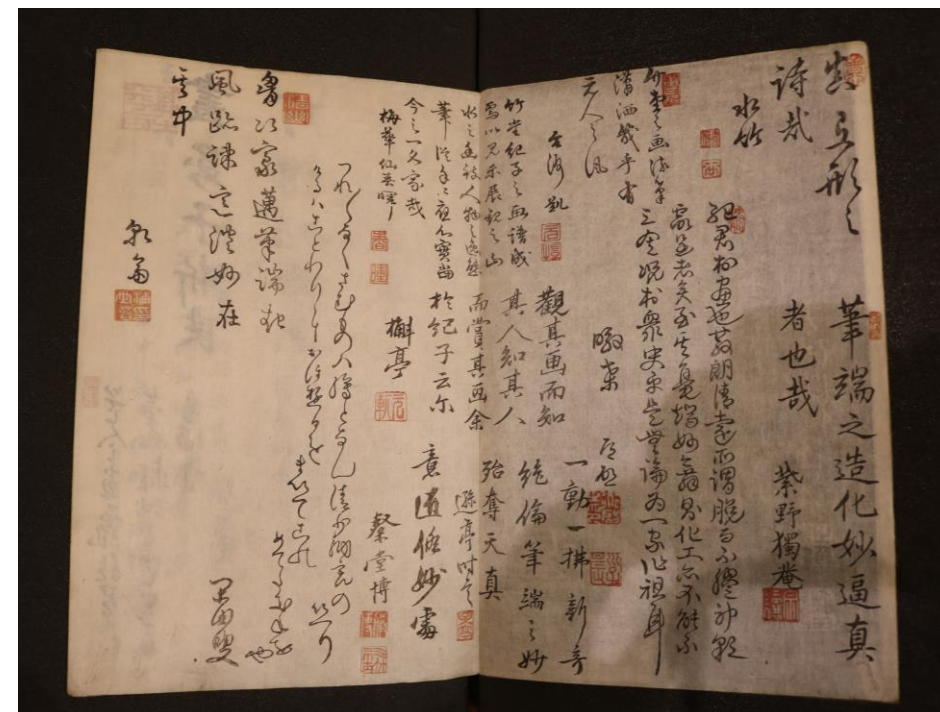
（国立アジア美術館 (National Museum of Asian Art) 蔵本）

画譜/書画帖

旋風葉、固定形旋風葉



紀竹堂『竹堂画譜』(寛政十二年
〈1800〉刊、ニューヨーク公共図書館
スペンサーコレクション (Spencer
Collection, New York Public Library) 蔵、
発表者撮影)



『竹堂画譜』の形態（発表者撮影写真）

* 発表中にお見せ致します。

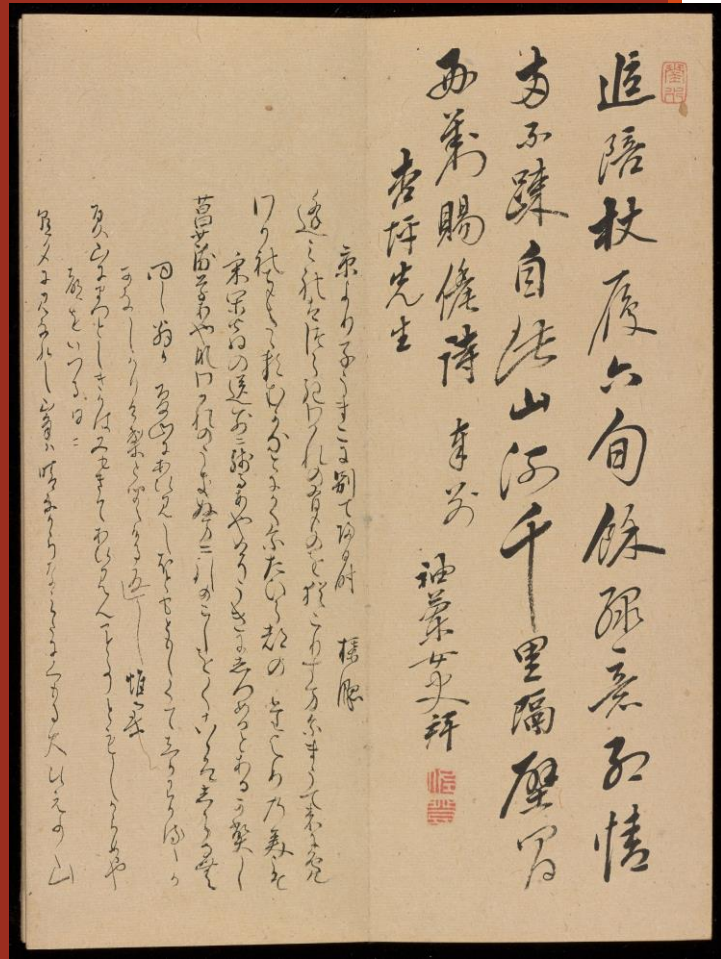
（ニューヨーク公共図書館蔵本、国立アジア美術館 (National Museum of Asian Art) 蔵本）

書画帖(写)

折帖



『三砭亭集書画帖』
 (文化二年(1805)序、
 国文学研究資料館
 蔵貴重書、請求記号
 99-68、折帖、
 36.5x30.5cm、厚さ
 7.1cm、国書データ
 ベース
<https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/200006200/14?ln=ja>)



書画帖(写)

折本

頼杏坪(編)『十句花月』(文政十年<1827>書写、
イエール大学バイネキ稀観書図書館蔵、請求
記号 2016 Folio 36、折本2帖、25.7x10.0cm,
27.4 x 10.1cm)

<https://collections.library.yale.edu/catalog/15790246>

折本（おりほん）

- ◆ 卷子本を端から一定の幅で折り畳んでいき、前後に表紙をつけたもの
- ◆ 読経に便利な形態
- ◆ 折り目が破損しやすい
- ◆ 旋風葉は折本の発展形態

（中村文執筆「折本」、『日本古典籍書誌学辞典』90頁）



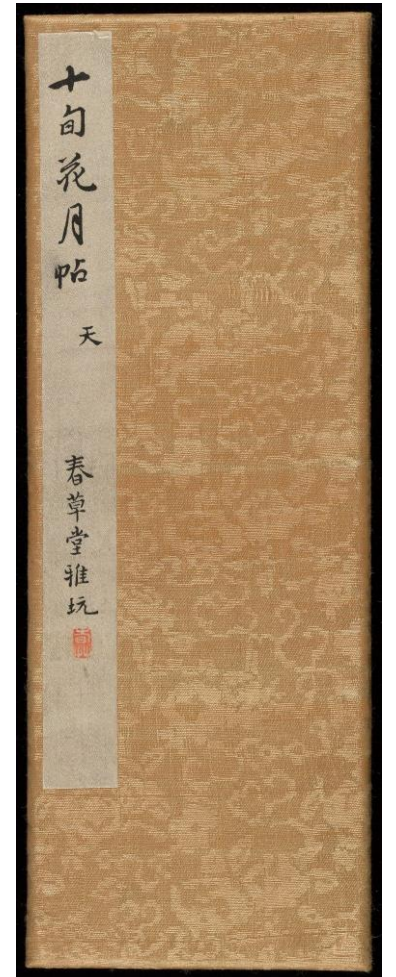
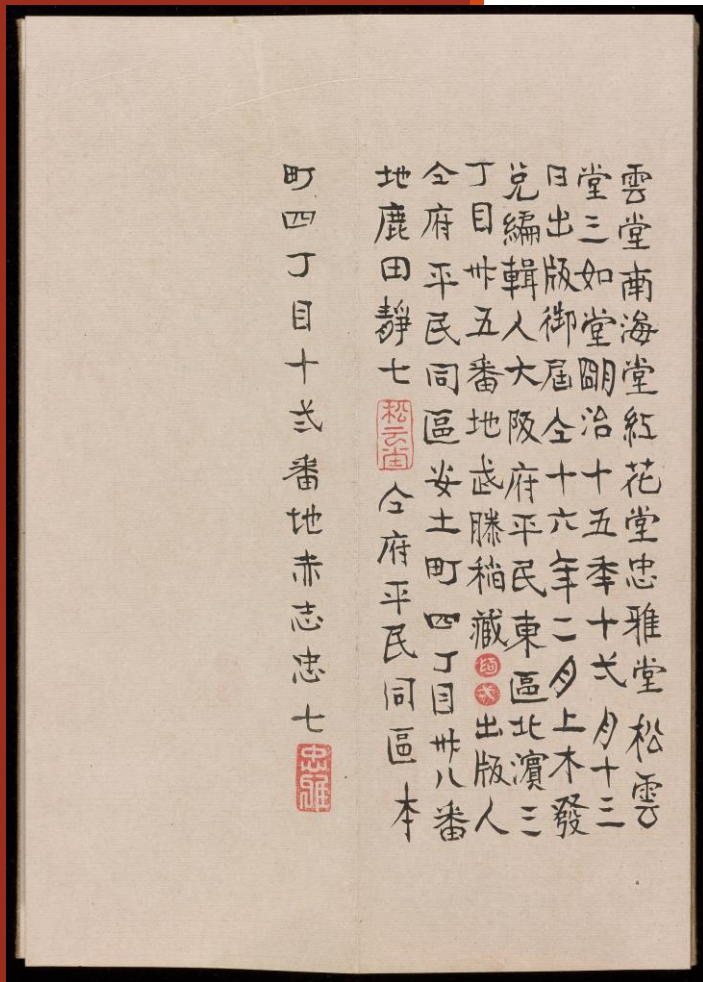
立川普済寺版『大方広仏華嚴經』

（国文学研究資料館 電子展示室「和書のさまざま」、2022年）

<https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/exhibition/1-1/index.html#show/5>

書画帖(刊)

折本(複製)



頼杏坪(編)『十旬花月帖』(明治十六年<1883>刊、大阪・鹿田静七
出版人、イエール大学バイネキ稀観書図書館蔵、請求記号 2016
Folio 37、折本3帖、28.5 x 10.2cm)
<https://collections.library.yale.edu/catalog/15790849>

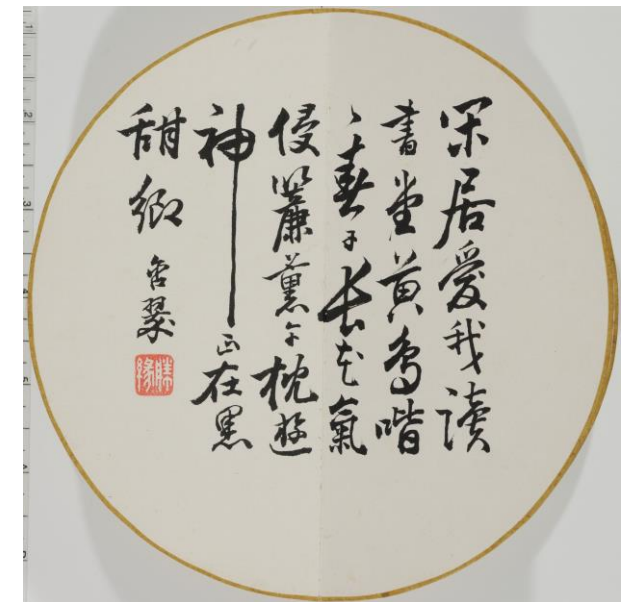
書画帖(写)

画帖装



幸野棹嶺ほか『珠氷帖』(肉筆、明治七年<1748>題字、国立アジア美術館 (National Museum of Asian Art) 蔵、直径16.5cm)

<https://pulverer.si.edu/node/837/title/1> Purchase, The Gerhard Pulverer Collection — Charles Lang Freer Endowment, Friends of the National Museum of Asian Art and the Harold P. Stern Memorial fund in appreciation of Jeffrey P. Cunard and his exemplary service to the Museum as chair of the Board of Trustees (2003-2007)



国文学研究資料館

電子展示室「和書のさまざま」(2022)

◆折本（おりほん）

<https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/exhibition/1-1/index.html#show/5>

◆折帖（おりじょう）

<https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/exhibition/1-1/index.html#show/6>

◆旋風葉（せんぷうよう）

<https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/exhibition/1-1/index.html#show/7>

◆画帖装（がじょうそう）

<https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/exhibition/1-1/index.html#show/17>

近世後期日本における 画譜・書画帖の装訂の多様化(仮説)

◆折本(おりほん)

<https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/exhibition/1-1/index.html#show/5>

◆折帖(おりじょう)

<https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/exhibition/1-1/index.html#show/6>

肉筆の書画を
集めた書画帖
(刊本の例もあり)



◆画帖装(がじょうそう)

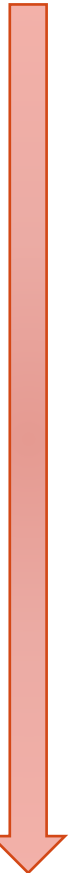
<https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/exhibition/1-1/index.html#show/17>

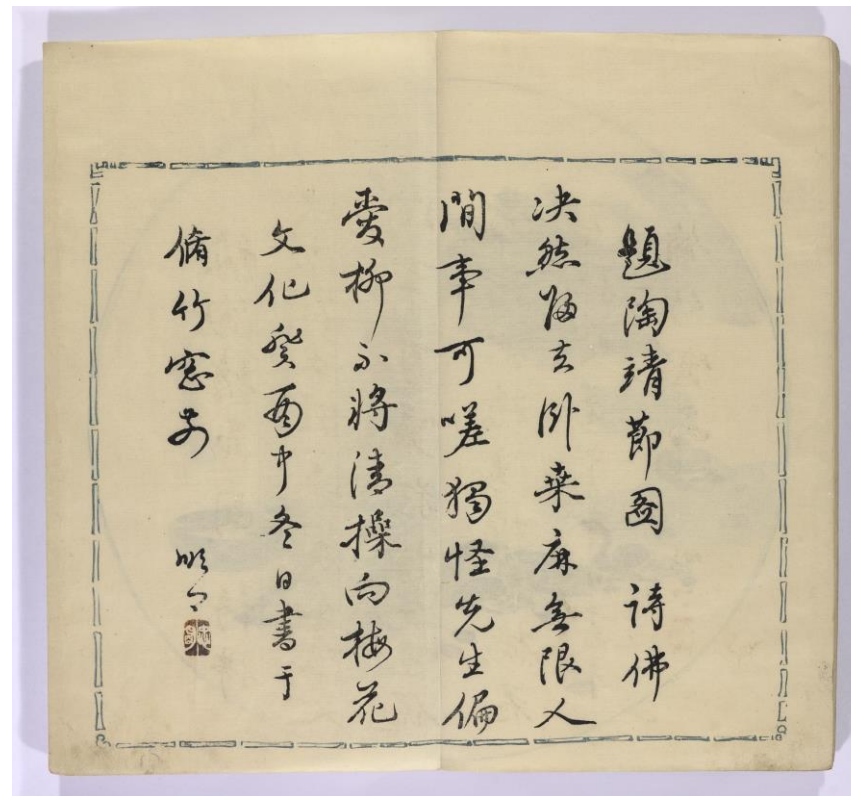
◆旋風葉(せんぷうよう)

<https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/exhibition/1-1/index.html#show/7>

刊本の画譜/
書画帖
(肉筆の例もあり)

見開き一枚で、
内側に折られている





画譜/書画帖

旋風葉

五十嵐竹沙『竹沙小品』(文化十年<1813>序刊、国立アジア美術館 (National Museum of Asian Art) 蔵、26.1x14.3cm)

<https://pulverer.si.edu/node/633/title/1/0>

Purchase, The Gerhard Pulverer Collection — Charles Lang Freer Endowment, Friends of the National Museum of Asian Art and the Harold P. Stern Memorial fund in appreciation of Jeffrey P. Cunard and his exemplary service to the Museum as chair of the Board of Trustees (2003-2007)

『竹沙小品』の形態（発表者撮影写真）

* 発表中にお見せ致します。

（国立アジア美術館 (National Museum of Asian Art) 蔵本）

五十嵐竹沙『竹沙小品』(文化十年(1813)序刊、国立アジア美術館 (National Museum of Asian Art) 蔵)

<https://pulverer.si.edu/node/633/title/1/3>

Purchase, The Gerhard Pulverer Collection — Charles Lang Freer Endowment, Friends of the National Museum of Asian Art and the Harold P. Stern Memorial fund in appreciation of Jeffrey P. Cunard and his exemplary service to the Museum as chair of the Board of Trustees (2003-2007)

◆亀田鵬斎の序文(文化十年)

「披此胡蝶装而觀之、則道人之
氣趣可見矣。」

(此の胡蝶装を披きて之を觀れば、則ち道人の氣趣見るべし。)

- 旋風葉(実態)
- 「胡蝶装」(序文)

蹶然而起。或褰裳涉水。或
侵多露行。又酒坐必醉。則
操土風而起舞。手之上下足
之進退。頻々數々。似作刺松點
又如亂柴鉞。於是世人或比
之顧席頭。或比之米襄陽。其
言孰曰不然乎。披此胡蝶裝而
觀之。則道人之氣趣可見矣。

癸酉冬十一月朔

鵬齋老人與識





采風集

屋山先生輯

三冊

此集、方今三都及諸國名家詩ヲ編集、作者各選、異ニイヘトモ、其得意佳作ニ居テ、カニ都諸國、諸名家ト朝夕相接、妙論佳話ヲ聞多、如シ風流ノ韻士必讀、集ニ

錦城百律

太田才佐先生著

一冊

錦城先生、儒宗タル世ヲ知ル、其詩モ亦高邁逸宕ニシテ、詩人ノ能及フ所ナラズ、學者コレヲ熟讀シテ、學問ヲ廣ク才識ヲ助ク、集ニ

竹沙小品

一帖

吳圭善先生、畫詩、天民五山書、水庵星池董堂諸先生、其外、高名ノ人、不勝數、吳竹沙先生、南宗ノ画法ヲ以テ山水人物、竹石花卉、水ノ圖ヲ淡彩アリ、コレハ諸名家ノ詩并ニ書ニ絶ト稱ス、且列張綴シタル、乱シ、風張、奇妙ノ畫帖

宋画人名錄

懷中折本

一帖

宋朝画家ノ姓名、字号并ニ其善ス所ヲ、宋テ伊呂波引シ、宋史本傳、其外、書畫ノ書數十部ヲ檢出シ、趙宗三百年ノ名画、高手十有餘家ヲ輯録シ、古画ヲ玩フ考證ニ備フ、風流名士、平常懷中ニテ、大ニ益ヲ得ル書ナリ

篋中集

弘齋先生選評

寸珍本 一冊

唐ノ元次山篋中集ニ倣ヒ、方今名家諸体詩ヲ選シ、詩每ニ朱批ヲ加シ、其書法モ亦精妙ニシ、實ニ吟、篋ノ紺珠、我窗ノ雅玩ナリ

宋四靈詩抄

天民先生全閱

二冊

趙宋ノ時、四靈ノ詩尤一代ノ盛事、余謂四靈、趙師秀、徐玘、徐照、翁卷、四人、其詩風雅俊逸、能ク唐法ヲ學フモノ、宋詩ヲマナク、人此書ヲ讀テ、宋ノ唐法ヲ學フ淵源ヲ知、其諸家必讀ノ書ナリ

晚唐詩鈔

查可亭同選

寸珍本 十六冊

胡遶東ノ唐音、戊籤、晚唐ノ詩ヲ披羅シ、ホ遺漏ナシ、實ニ巨觀ト稱ス、然レニ卷帙頗多、披覽便ナク、清、查可亭、凌子健、相俱選錄、編次シ、詩窓ノ雅賞ニ備フ、其選悉ク密麗奧峭、爽秀、條暢ノ作ニシ、其標詞新隲、立意簡遠、詩ヲ學ス人、コレヲ熟讀、玩味セバ、兩宋盛觴ヲ知リ、且中唐潮流シテ、風唐ノ妙趣、至ルベシ、今小刻シ、寸珍本トシ、ハ上清玩、旅途ノ便覽トシ、風流ノ韻士、一日モ欠カラル書ナリ

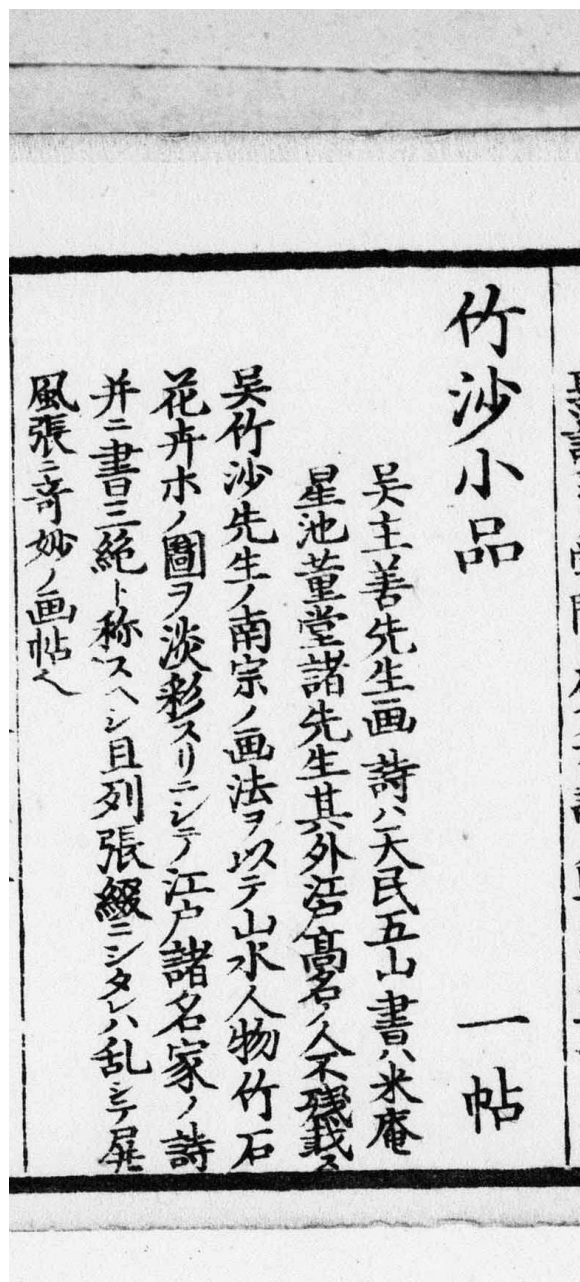
菊磻遺稿

宋高九萬著

一冊

菊磻先生、高翥字、九萬、南宋ノ隱君子ナリ、西湖ニ隱居シ、吟嘯ニ放情ス、同時劉後村、戴石屏、亦諸名流ト唱和シ、詩名時高、然レ其集、湮遠ニシ、傳フナリ、清高江村徐健庵

「萬笈堂〔英大助〕藏板目錄」『佩文齋詠物詩選』（文政十三年〈1830〉刊、国文学研究資料館蔵、日本漢詩文集コレクション（中村真一郎氏旧蔵）、請求記号 87-219-1~4、国書データベース <https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/200008478/515?ln=ja>）



◆「江戸高名ノ人不殘載ス。」

◆「且**列張綴**ニシタレバ、乱シテ
屏風張ニ奇妙ノ画帖也。」

- 旋風葉(実態)
- 「胡蝶装」(序文)
- 「列帳綴」(蔵版目録・広告文)

「萬笈堂〔英大助〕蔵板目録』『佩文齋詠物詩選』(文政十三年
(1830)刊、国文学研究資料館蔵、日本漢詩文集コレクション
(中村真一郎氏旧蔵)、請求記号 87-219-1~4、国書デー
タベース <https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/200008478/515?ln=ja>)

胡蝶装（日本古典籍書誌学）

- ◆粘葉装（でっちょうそう）と同じと考えられている。
- ◆明代の『通雅』に、「粘葉、謂蝴蝶装」とあり、明代以降、そして日本でも江戸時代にはそのように考えられてきた。
- ◆ところが、江戸末期、考証学者岡本保孝（況斎）が、〔中略〕明治以降、岡本説を受けて辞書の解説などにも大きな混乱が見られた。すなわち、胡蝶装を列帖装（れっちょうそう・れつじょうそう）としたり、漠然と大和綴じのこととしたり、〔中略〕依然として列帖装を胡蝶装とする立場もある。

（井上宗雄執筆、『日本古典籍書誌学辞典』222頁）

国文学研究資料館 電子展示室「和書のさまざま」(2022)

◆粘葉装(でっちょうそう)

紙を二つに折り、外側の折り目の脇を糊代として貼り重ねたもの。

<https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/exhibition/1-1/index.html#show/9>

◆列帖装(れっちょうそう)

紙を二枚以上重ねて二つ折りにしたもの(一括り・一折)を複数並べ、糸などで綴じたもの。

<https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/exhibition/1-1/index.html#show/10>

『竹堂画譜』の形態（発表者撮影写真）

* 発表中にお見せ致します。

（メトロポリタン美術館蔵本）

『竹堂画譜』の形態（発表者撮影写真）

* 発表中にお見せ致します。

（ニューヨーク公共図書館蔵本、国立アジア美術館 (National Museum of Asian Art) 蔵本）

胡蝶装（漢籍版本）

◆陳国慶著・沢谷昭次訳『漢籍版本入門』（研文出版、1984年）、167～168頁

蝴蝶装

この装訂方法は、書口〔発表者注：料紙の折り目〕と書口をくっつけ、外側の表紙としては硬い紙を用いて包みこみ、紙訂（こより）を用いず糊うちして書背に固めつけ、版心を内側に向け、外枠は外側に向かうようにする。〔中略〕

『明史芸文志』には、

文淵閣の蔵書は、いずれも宋元時代の遺品であって、精巧美麗なものばかりである。その書背は（線装の場合とは）逆さまに折られており、四周が外側に位置している。〔これが、すなわち蝴蝶装である。〕

〔文淵閣蔵書、皆宋元所遺、無不精美。書背倒折、四周向外、此即蝴蝶装也。〕

と述べられている。

近世後期日本における 画譜・書画帖の装訂の多様化(仮説)

これらを全て
見做した可能性もあるか
胡蝶装と

◆折本(おりほん)

<https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/exhibition/1-1/index.html#show/5>

◆折帖(おりじょう)

<https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/exhibition/1-1/index.html#show/6>

肉筆の書画を
集めた書画帖
(刊本の例もあり)



◆画帖装(がじょうそう)

<https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/exhibition/1-1/index.html#show/17>

◆旋風葉(せんぷうよう)

<https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/exhibition/1-1/index.html#show/7>

刊本の画譜/
書画帖
(肉筆の例もあり)

見開きは一枚で、
内側に折られている

画帖装の解体

「〔前略〕どの見開きも一枚の紙となるために、絵を描くのに便利であり、また帖を解体し、それぞれの見開きを完全な形で剥がすことも可能である。」

（中村文執筆「折帖仕立て」、『日本古典籍書誌学辞典』90頁）

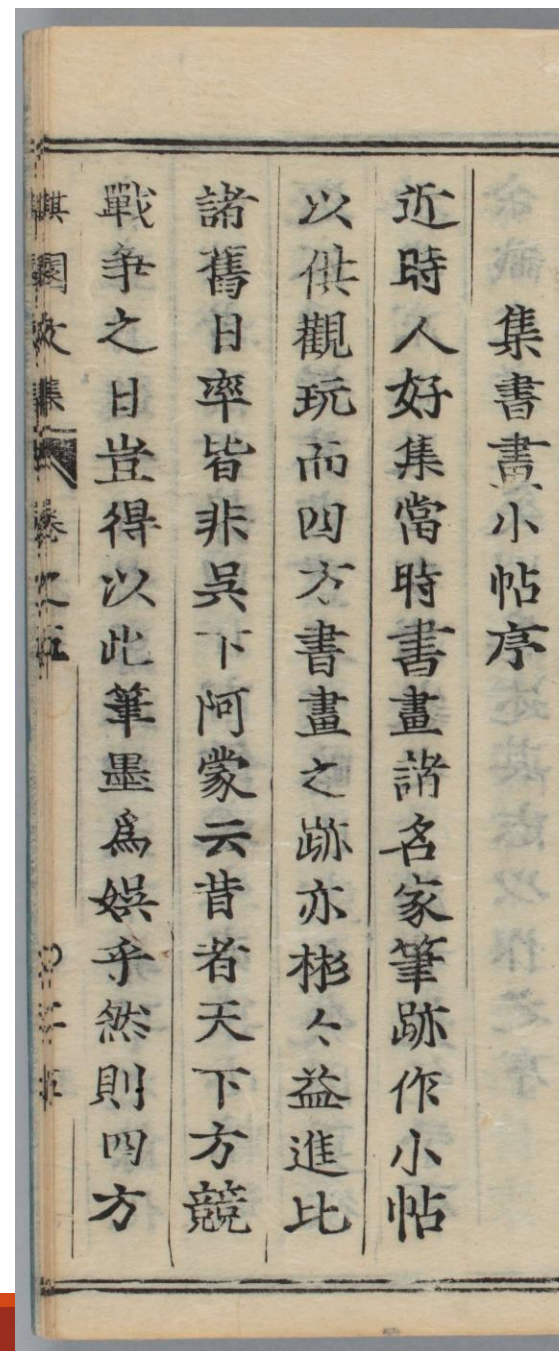
3. 書画帖と漢詩文生成の場

皆川淇園(1735～1807)

近時人好集當時書画諸名家筆跡、作小帖以供觀玩。

(近時の人好んで当時の書画諸名家の筆跡を集め、小帖を作して以て觀玩に供す。)

皆川淇園「集書画小帖序」『淇園文集』卷五(文化十三年
<1816>序刊、国文学研究資料館蔵、国書データベース
<https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/200021234/166?ln=ja>)

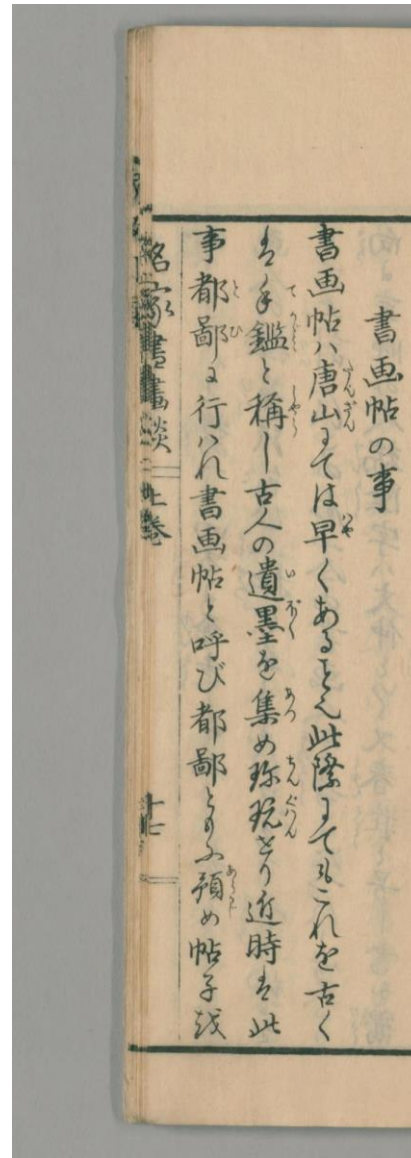
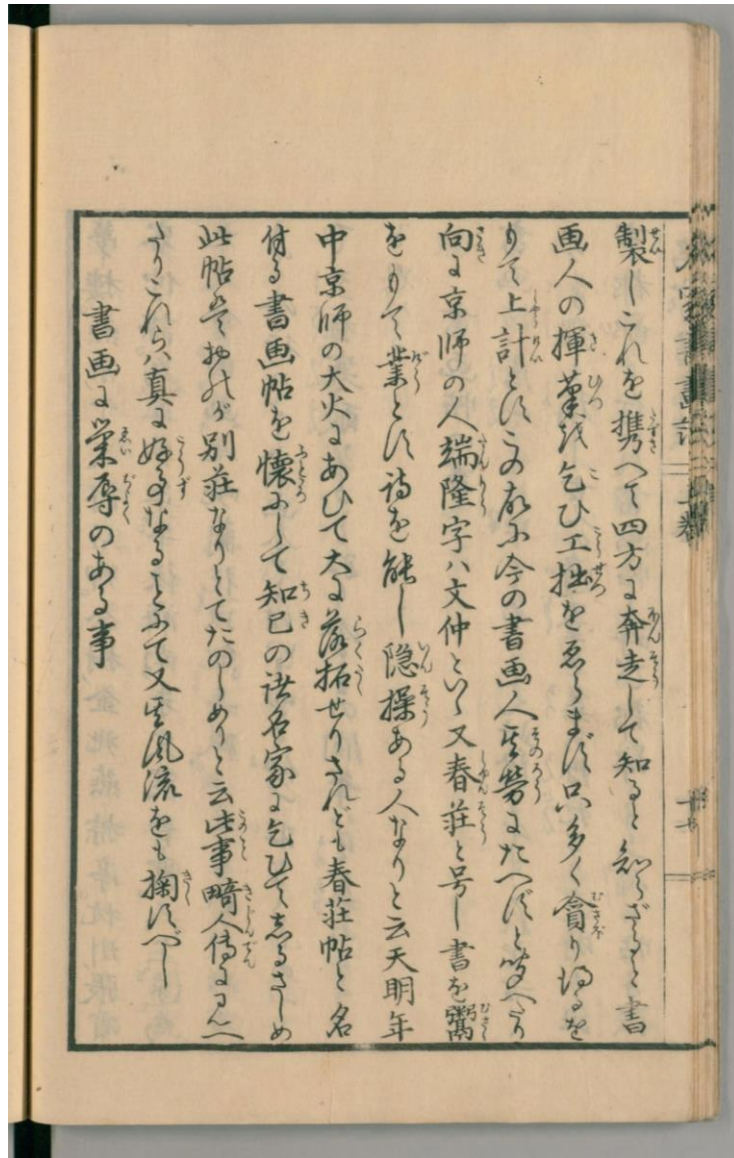




「巻頭淇園序文の寸法は帖の大きさに合わせたものとおぼしく、かつ各作の法量の大小に応じて緊密に貼付されている状態からしても、おりにふれ順次貼り足していったというよりは、長期に亘る蒐集物を、序文のもののされた文化二年頃一時にこの巻冊に纏めたものと見做したがよからう。」

(宮崎修多「新収資料紹介②5」『国文学研究資料館報』第29号、1987年9月)

『三砦亭集書画帖』(文化二年(1805)序、国文学研究資料館蔵貴重書、請求記号 99-68、折帖、36.5x30.5cm、厚さ7.1cm、国書データベース <https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/200006200/14?ln=ja>)

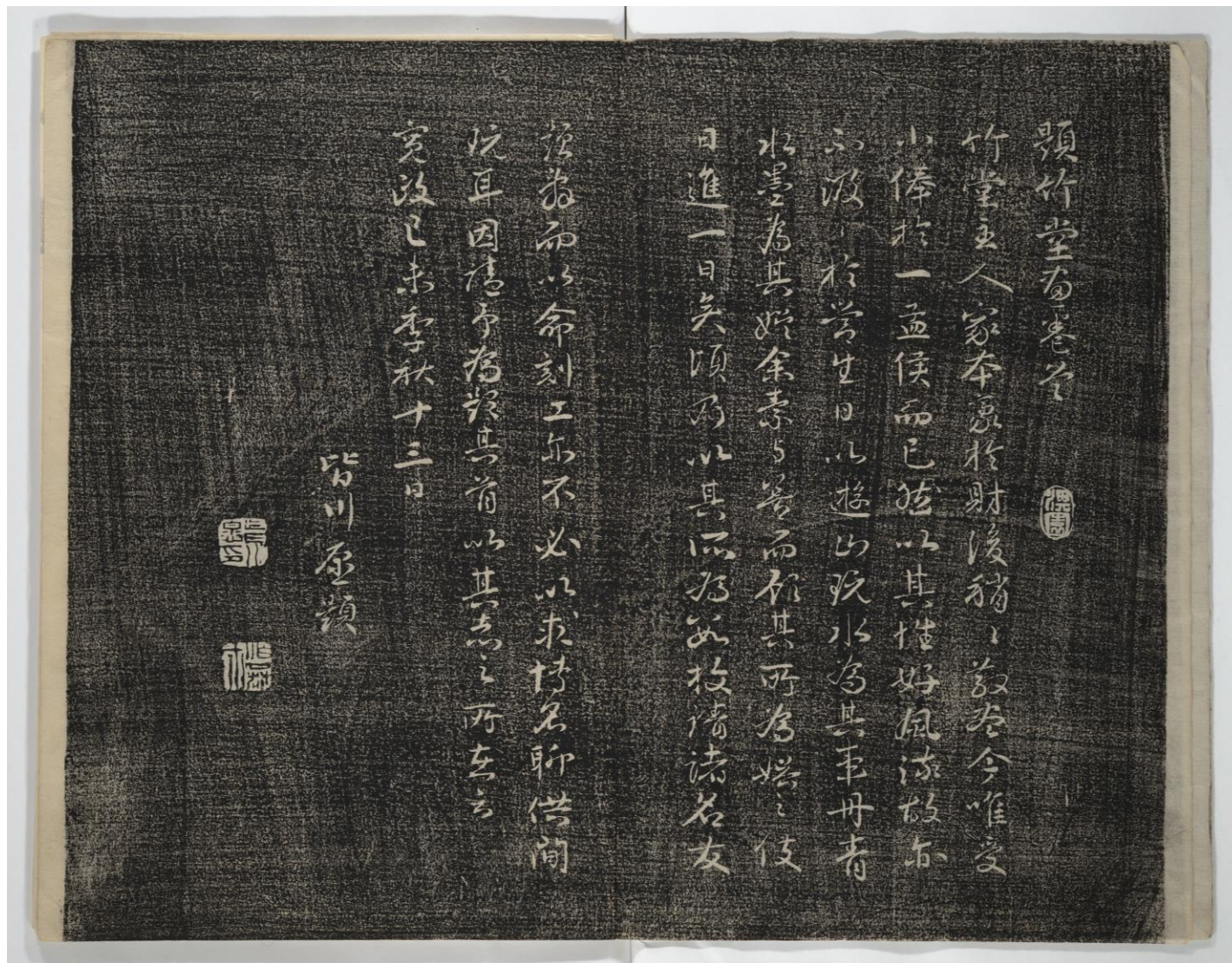


◆「書画帖の事」

- 「**予め帖子を製し**、これを携へて四方に奔走して、知ると知らざると書画人の揮筆を乞ひ、工拙をゑらまず、只多く貪り得るをもて上計とす。この故に、今の書画人、其労にたへずと聞へたり。」
- 「**天明年中**、京師の大火にあひて、大に落拓せり。されども春莊帖と名付る書画帖を懷にして、知己の諸名家に乞ひてしるさしめ、此帖はおのが別莊なりとてたのしめりと云。」

* 大火は天明八年(1788)正月晦日

安西雲煙『近世名家書画談』上巻(天保二年<1831>刊)、
国立国会図書館蔵、国書データベース
<https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/100397059/23?ln=ja>



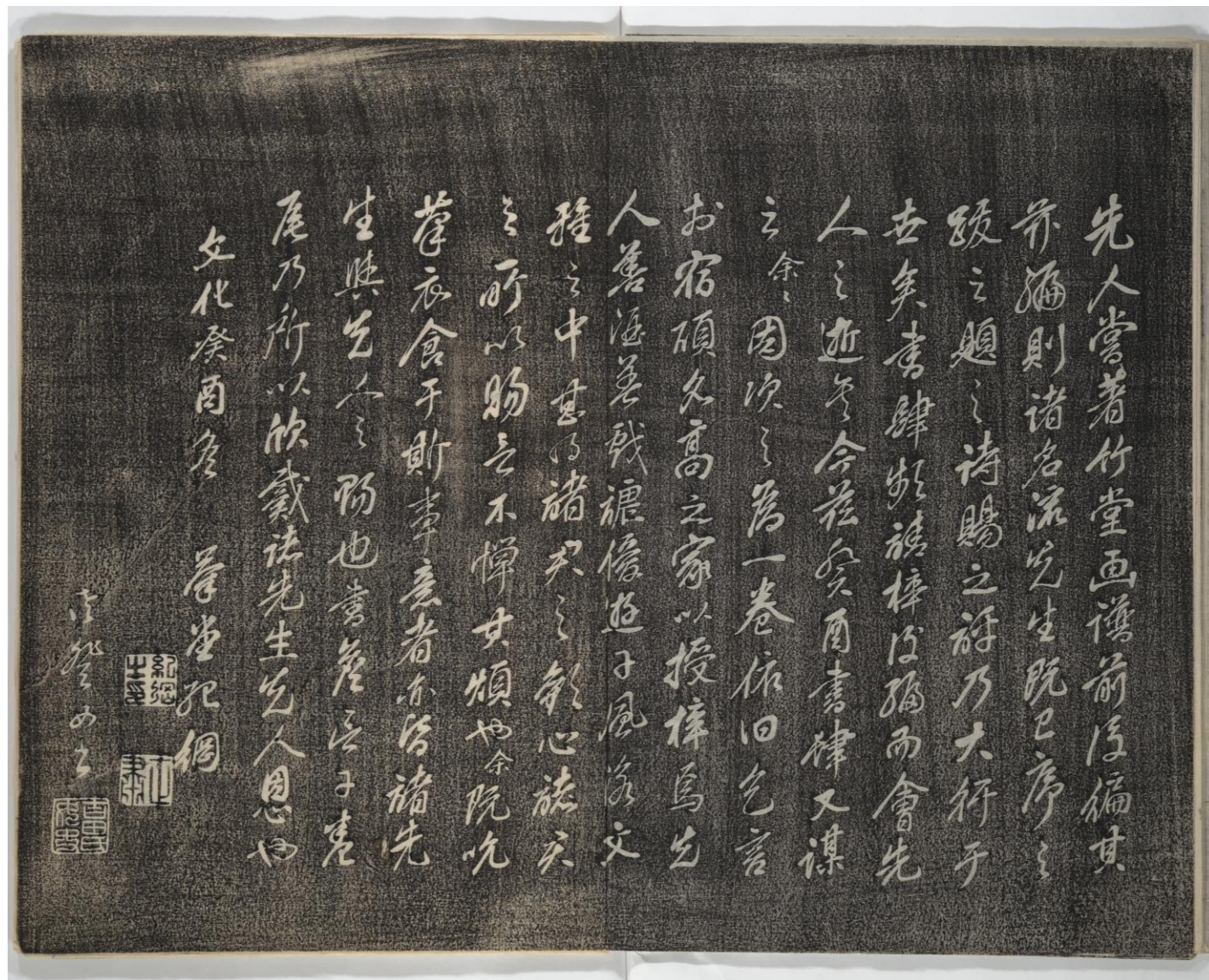
皆川淇園「題竹堂画卷首」(寛政十一年
(1799)撰)、紀竹堂『竹堂画譜』(寛政十
二年(1800)刊、メトロポリタン美術館蔵)

[https://www.metmuseum.org/art/collecti
on/search/78780](https://www.metmuseum.org/art/collecti
on/search/78780)

皆川淇園(1735～1807)

頃乃以其所為数枚請諸名友
題辞而以命刻工。亦不必以
求博名。聊供閒玩耳。

(頃乃ち其の為す所の数枚を
以て諸名友の題辞を請ふて
以て刻工に命ず。亦た必ずし
も名を博めんことを求むるを
以てせず。聊か閒玩に供する
のみ。)



紀菊堂〔跋文〕(文化十年<1813>撰)、紀竹堂
『竹堂画譜二篇』(文化十二年<1815>刊、メロ
ポリタン美術館蔵)

[https://www.metmuseum.org/art/collection/se
arch/78780](https://www.metmuseum.org/art/collection/search/78780)

紀菊堂

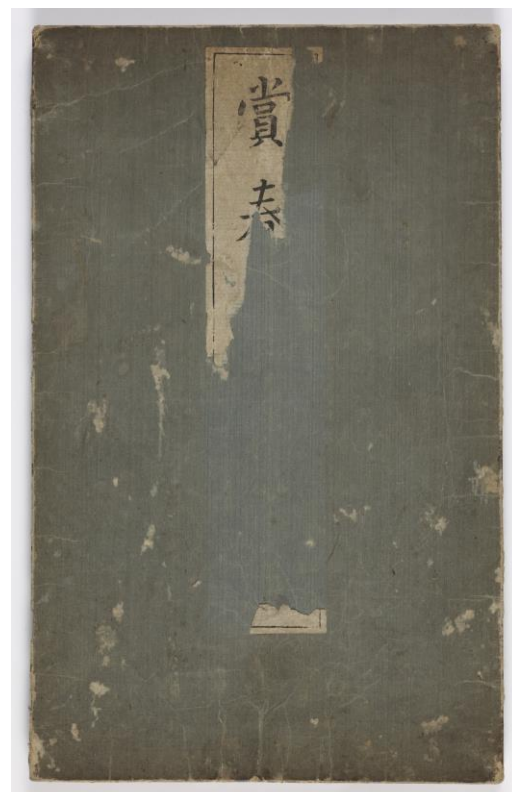
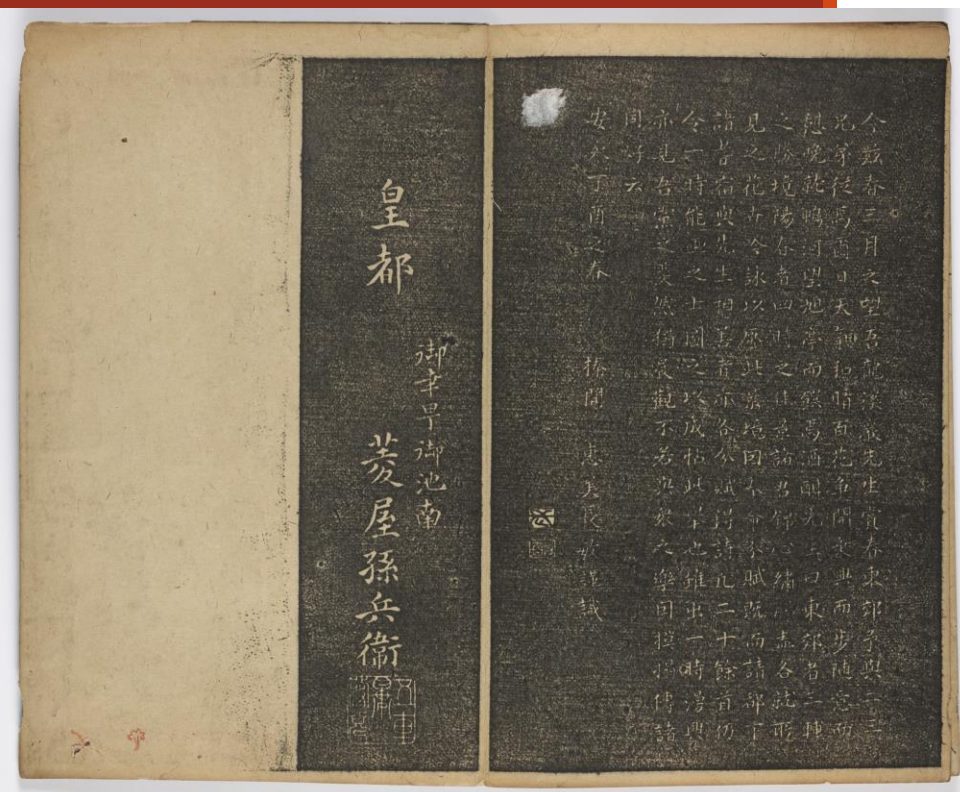
先人嘗著竹堂画譜前後編。其前編則諸
名流先生既已序之跋之、題之詩賜之評。
乃大行于世矣。書肆頻請梓後編、而会先
人之逝矣。

(先人嘗て竹堂画譜前後編を著す。其の
前編は則ち諸名流先生既已に之に序し
之に跋し、之に詩を題し之に評を賜ふ。乃
ち大いに世に行はる。書肆頻りに後編を
梓せんことを請ひて、先人の逝くに会
ふ。)

書肆による書画帖の商品化

「本論では『賞春芳帖』の全貌を紹介し、その出版状況の解明を試みてきた。もともと岩垣龍溪の主催する松蘿館詩社関係者が金銭的に関与して出版した私家版だろう。制作に携わった菱屋孫兵衛が後印本を売品として出版したと思われる。菱屋孫兵衛は、絵本、画譜の権利をまとめて所持し、積極的に販売していた。『賞春芳帖』は文政元年（一八一八）刊『漢画指南』で始まる五丁半の蔵版書目に「諸名家正面摺」として載る。遅いほうでは嘉永三年（一八五〇）以降で、嘉永六年意向の可能性もある『日本書紀 小寺板』で始まる十丁の広告、『日本書紀』で始まる六丁の広告にも載り、長期間にわたって販売されていたことがわかる。」

（伊藤紫織『江戸時代の唐絵 — 南蘋派、南画から南北合派へ』（春風社、2023年）、376頁。「補論 『賞春芳帖』と岩垣龍溪主催松蘿館詩社」）



画譜/書画帖

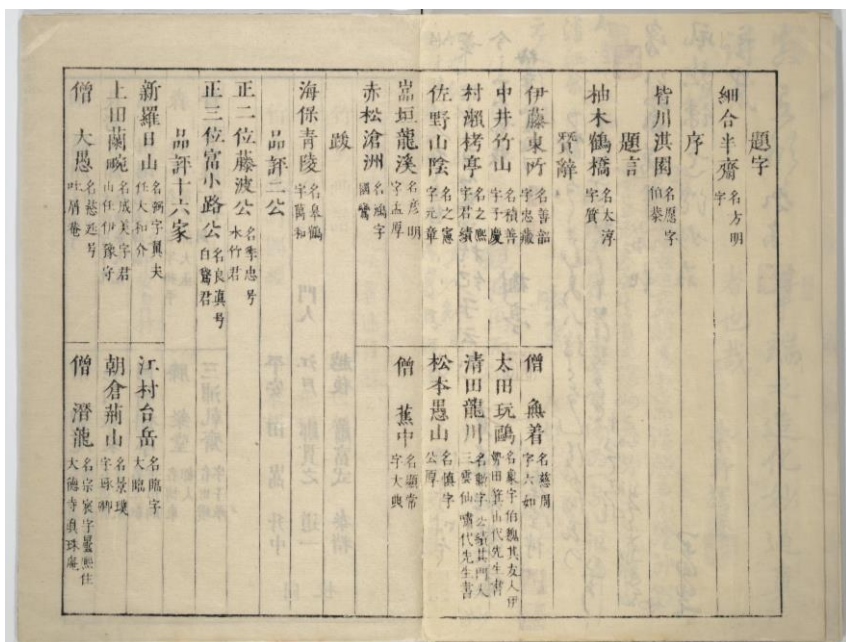
画帖装

『賞春芳』(安永六年<1777>序刊、国立アジア美術館 (National Museum of Asian Art) 蔵、25.6x15.9cm)

<https://pulverer.si.edu/node/559/title/1>

Purchase, The Gerhard Pulverer Collection — Charles Lang Freer Endowment, Friends of the National Museum of Asian Art and the Harold P. Stern Memorial fund in appreciation of Jeffrey P. Cunard and his exemplary service to the Museum as chair of the Board of Trustees (2003-2007)

書画帖に附された人名録



左:『竹堂画譜』(寛政十二年
〈1800〉刊、メトロポリタン美
術館蔵)

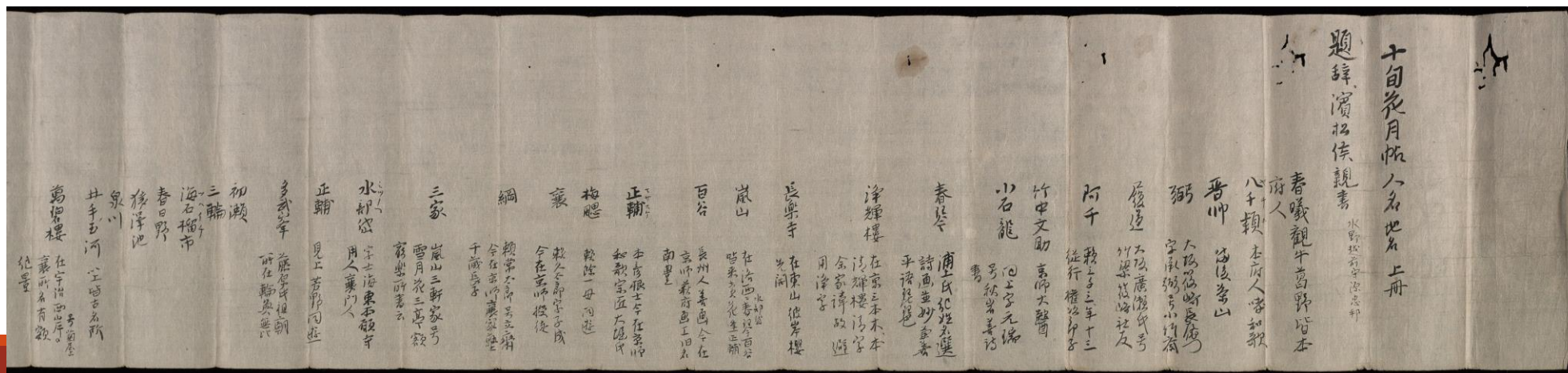
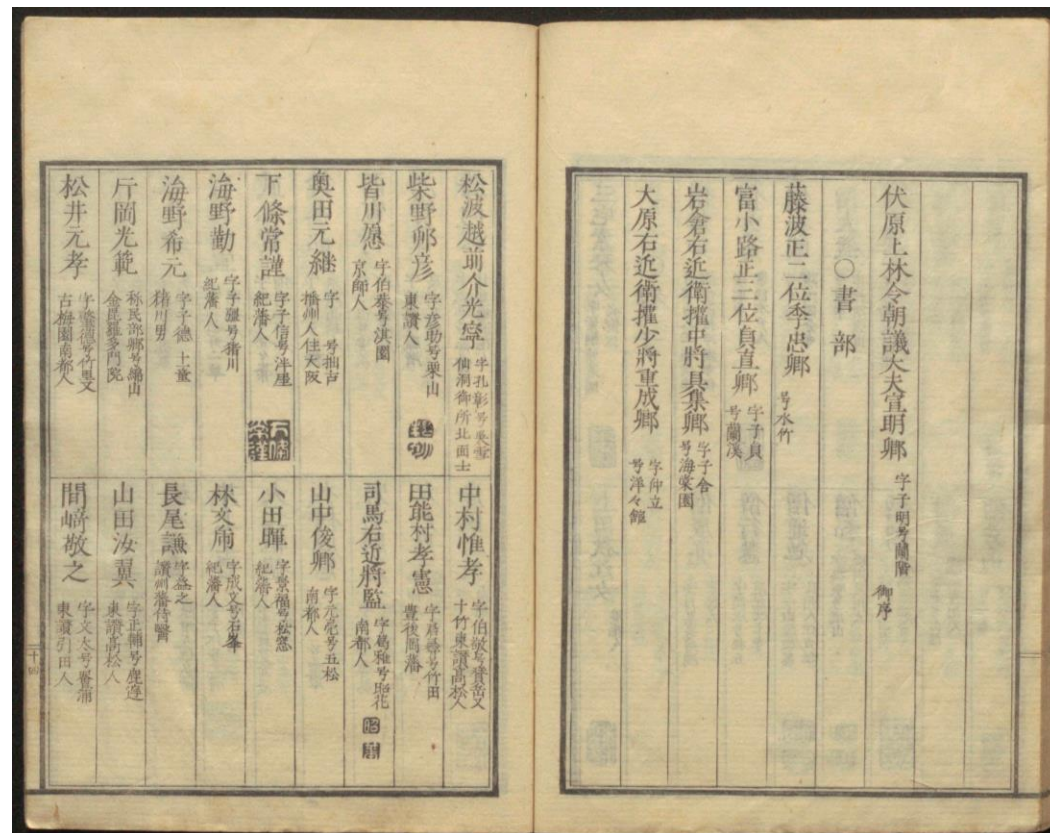
<https://www.metmuseum.org/art/collection/search/78780>

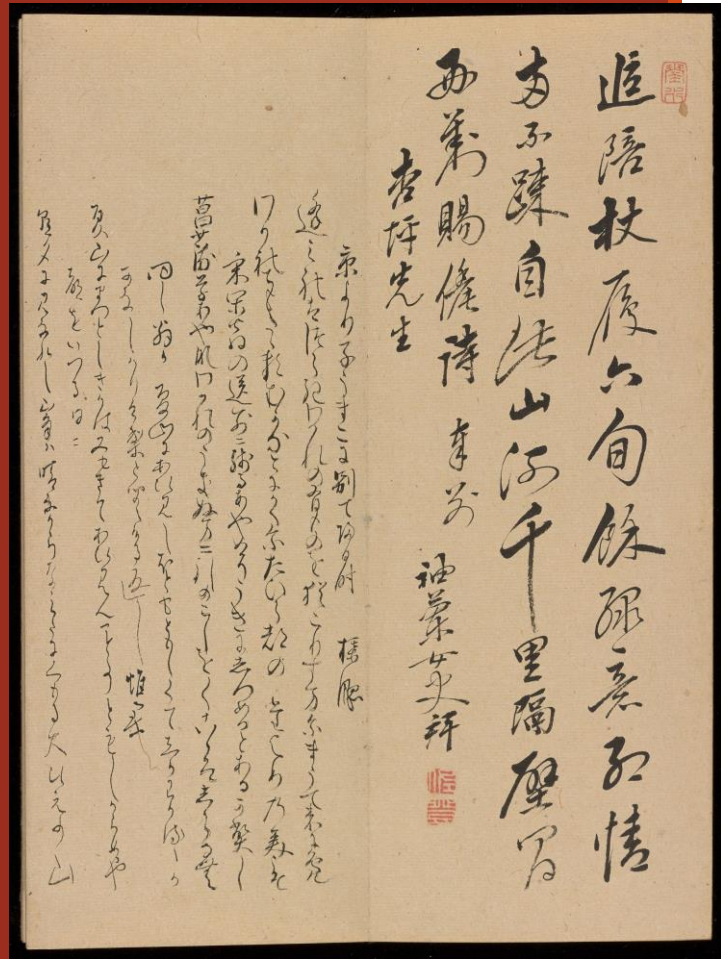
右:『名数画譜』(文化七年
〈1810〉刊、国文学研究資料
館蔵、国書データベース)

<https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/200034958/184?ln=ja>)

下:『十旬花月』(文政十年
〈1827〉書写、イエール大学
バイネキ稀覯書図書館蔵)
附帯のまくり(書写年不詳)

<https://collections.library.yale.edu/catalog/15790246>

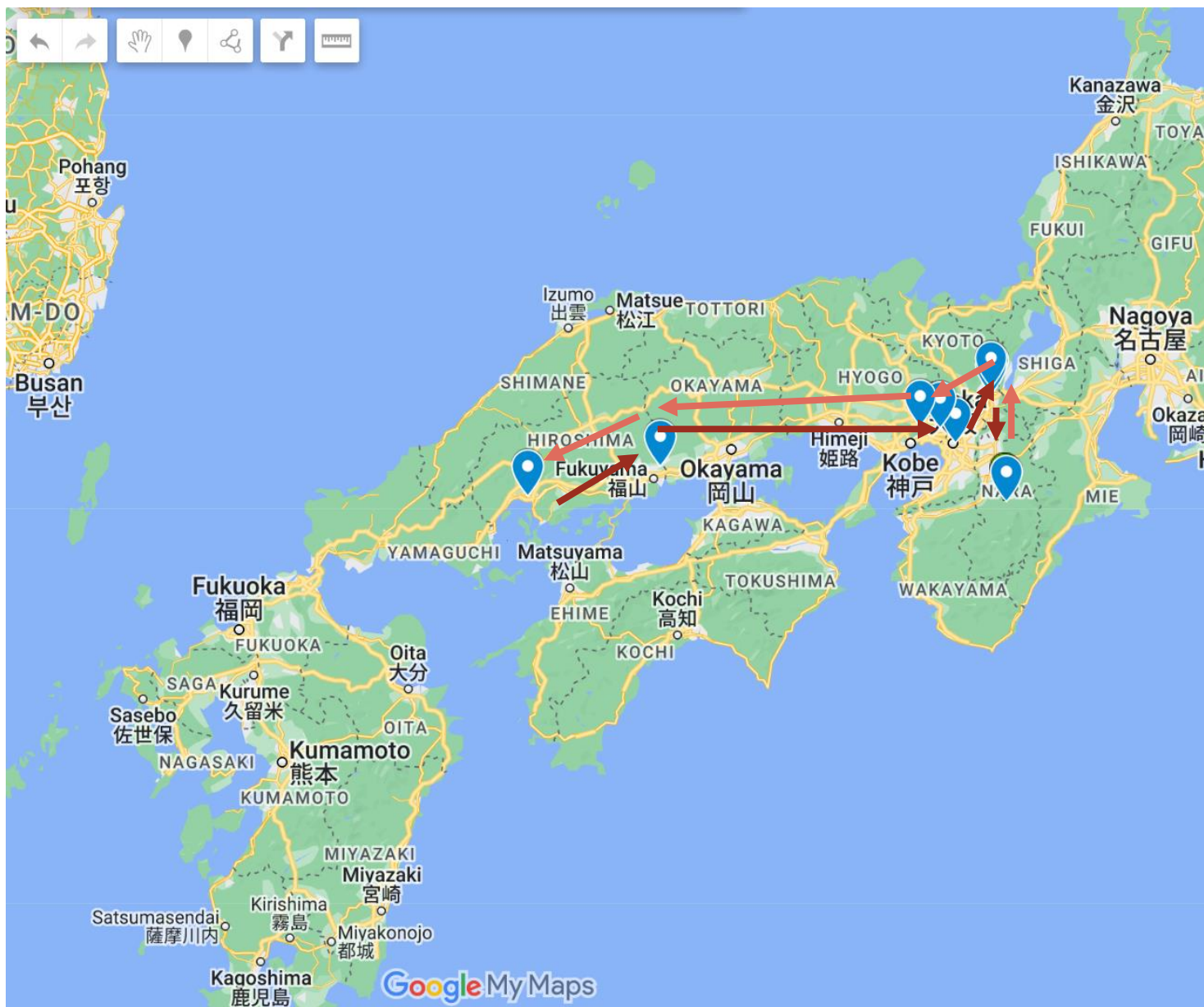




書画帖(写)

折本

頼杏坪(編)『十句花月』(文政十年<1827>書写、
イエール大学バイネキ稀観書図書館蔵、請求
記号 2016 Folio 36、折本2帖、25.7x10.0cm,
27.4 x 10.1cm)
<https://collections.library.yale.edu/catalog/15790246>



◆ 頼杏坪 文政十年<1827>の旅程(頼梅颯『梅颯日記』)

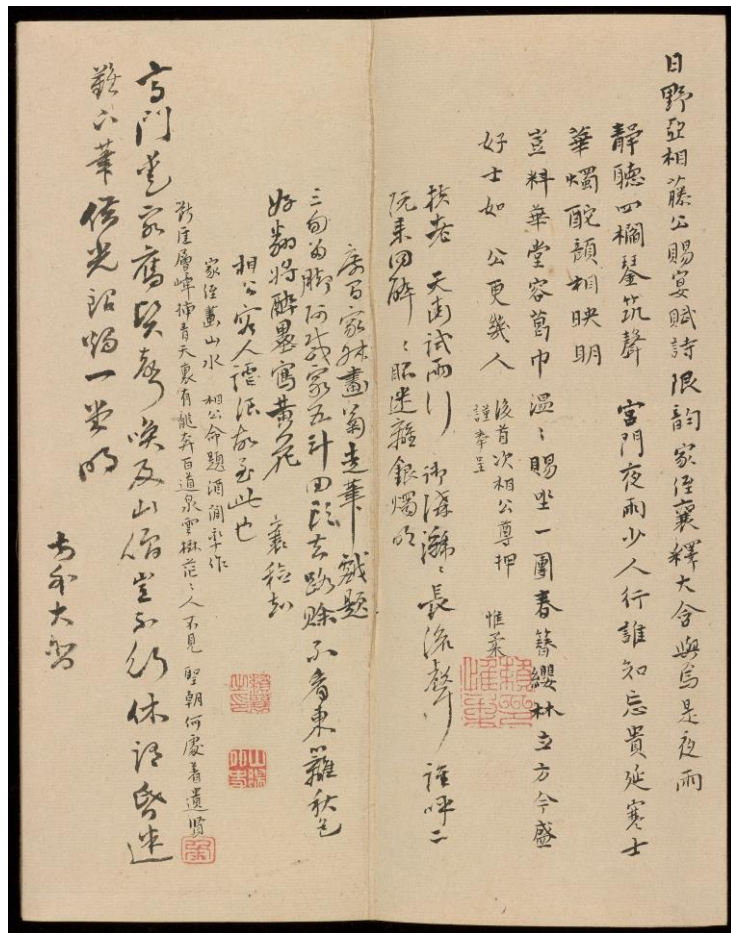
- 広島 2.19
- 神辺 2.23
- 大坂 3.2
- 京都 3.6
- 嵐山 3.15
- 吉野 3.18
- 京都 3.19~5.8
- 伊丹 5.9
- 有馬温泉 5.10
- 神辺 5.16
- 広島 5.22

『十旬花月』の形態（発表者撮影写真）

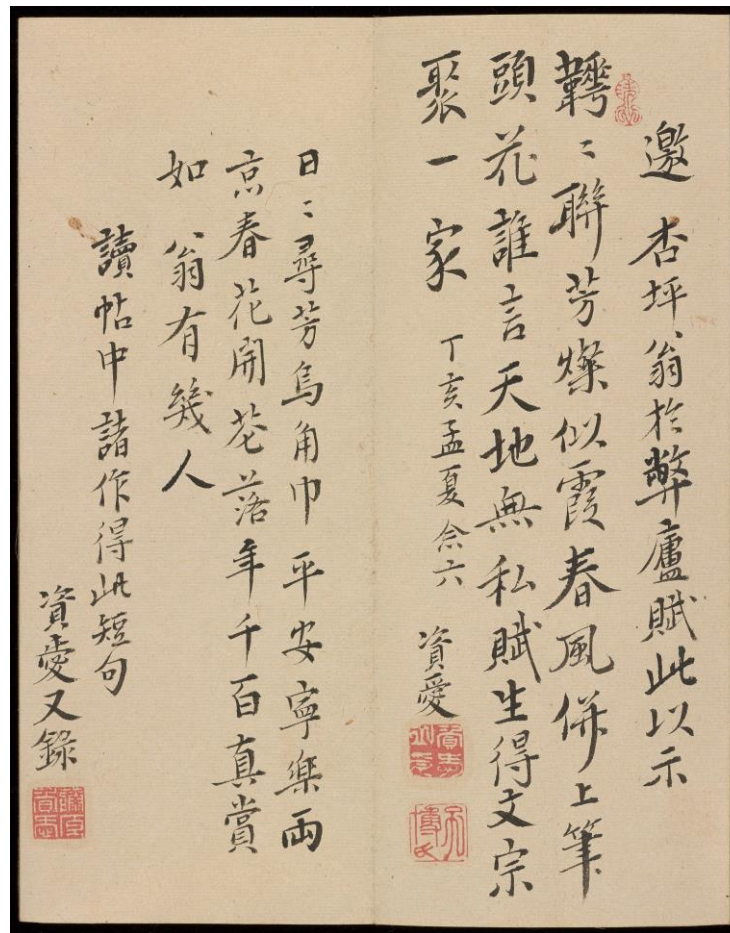
* 発表中にお見せ致します。

（イエール大学バイネキ稀観書図書館蔵本）

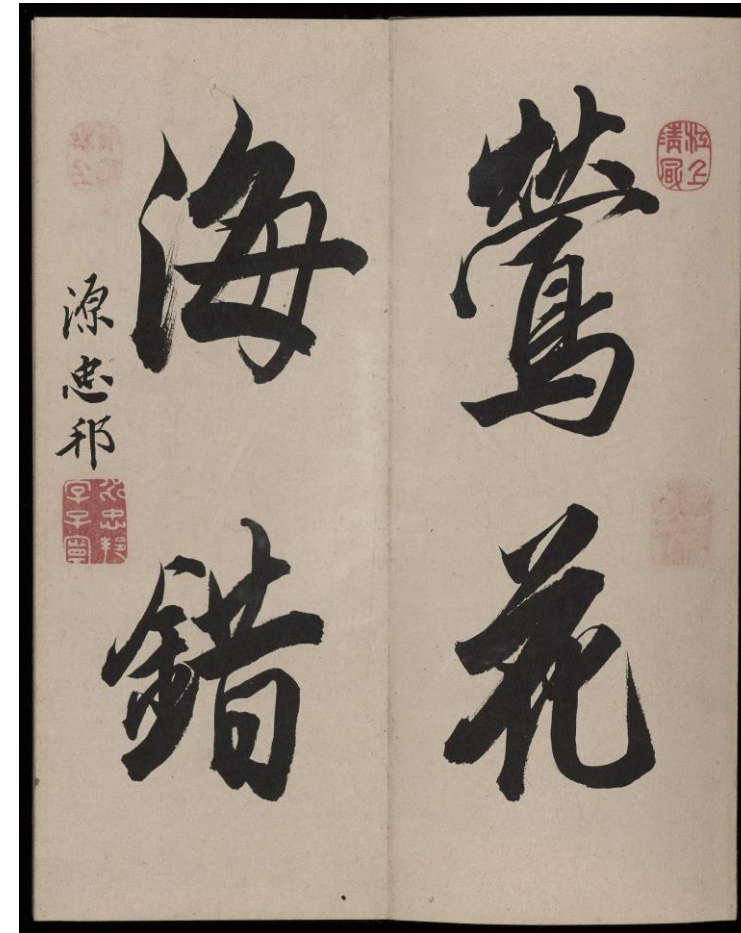
頼杏坪、頼山陽、雲華大舍による応酬



日野資愛の漢詩二首

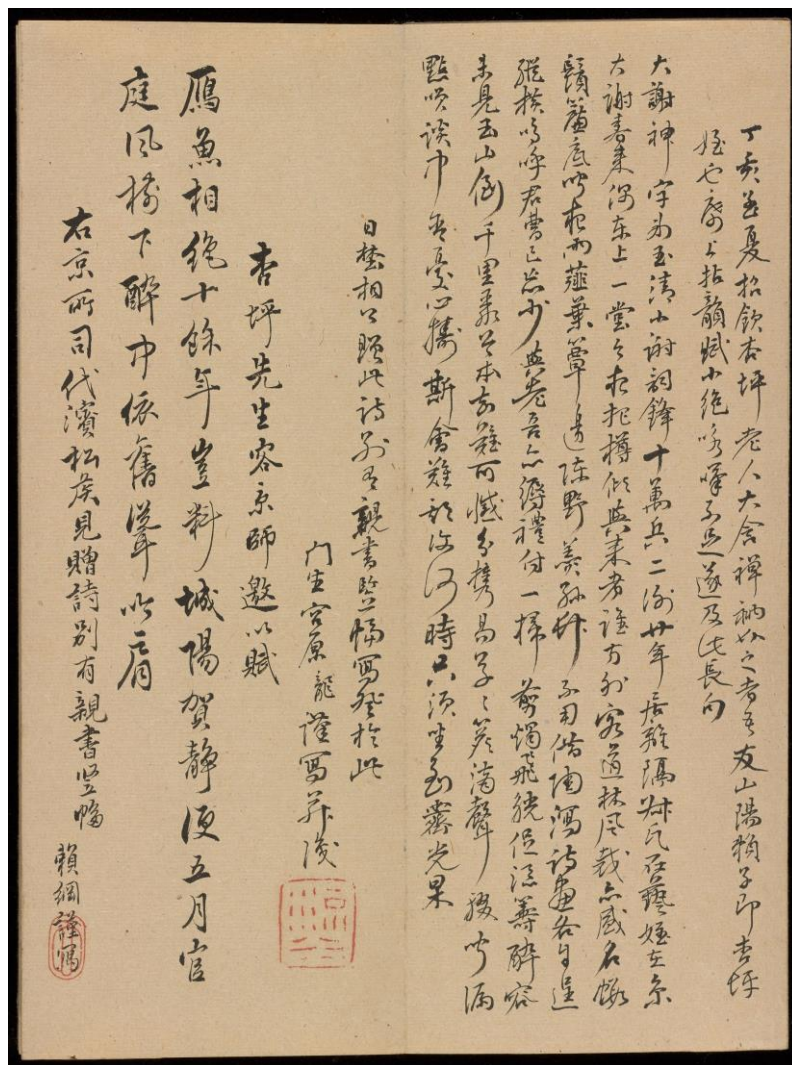


水野忠邦の題字



頼杏坪(編)『十句花月』(文政十年<1827>書写、イエール大学バイネキ稀観書図書館蔵、
請求記号 2016 Folio 36、折本2帖、25.7x10.0cm, 27.4 x 10.1cm)

<https://collections.library.yale.edu/catalog/15790246>



◆ 日野資愛から懐紙(和歌)と
豎幅(漢詩)

◆ 水野忠邦から豎幅(漢詩)

→ 書画帖に頼梅颯、宮原潜叟、
頼立斎が転写

➤ 日野資愛は院伝奏

➤ 水野忠邦は京都所司代

頼杏坪(編)『十旬花月』(文政十年<1827>書写、イエール大学バイネキ稀観書図書館蔵、
請求記号 2016 Folio 36、折本2帖、25.7x10.0cm, 27.4 x 10.1cm)

<https://collections.library.yale.edu/catalog/15790246>

今後の課題

- ◆ 武田光一「書画が蒐まる／書画を蒐める — 寄合・蒐集書画帖について」(武田光一 責任編集『文人諸家 — 寄合書画帖』江戸名作画帖全集10、駸々堂出版、1997年)
- 「複数の作者の書画は、ある人のもとに、ある機会に蒐まったか、あるいはある人が積極的に蒐めたかのいずれかである。従って蒐まった(蒐めた)書画を画帖仕立てにするとは限らず、**卷子装の時も、また屏風に貼り交ぜることもあった**。(152頁)
- 「池大雅の「岳陽樓図・酔翁亭図屏風」の原本である中国画「祝寿諸名家書画帖」は、書二十、画二十の計四十点から成る書画帖であるが、これは張還真なる人物の八十歳の寿を祝うために、**康熙六、七年(一六六七、六八)頃に作られたもの**である。画は高簡、鈕貞、史漢、邵振先の四名が分担して描き、書は金俊明ら十五名が書いている。このような**中国での例に倣って**日本でも祝寿書画帖が作られるようになったのであろう。(152～153頁)

【再掲】近世後期日本における 画譜・書画帖の装訂の多様化（仮説）

これらを全て
見做した可能性もあるか
胡蝶装と

◆折本（おりほん）

<https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/exhibition/1-1/index.html#show/5>

◆折帖（おりじょう）

<https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/exhibition/1-1/index.html#show/6>

肉筆の書画を
集めた書画帖
(刊本の例もあり)



◆画帖装（がじょうそう）

<https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/exhibition/1-1/index.html#show/17>

◆旋風葉（せんぷうよう）

<https://www.nijl.ac.jp/etenji/washo/exhibition/1-1/index.html#show/7>

刊本の画譜/
書画帖
(肉筆の例もあり)

見開きは一枚で、
内側に折られている



紀竹堂『竹堂画譜二篇』
 (文化十二年<1815>刊、
 メトロポリタン美術館蔵)
<https://www.metmuseum.org/art/collection/search/78780>

参考文献

- 水田紀久「三疋亭集書画帖所載 兼葭堂来翰二通」『木村兼葭堂研究 — 水の中央に在り』（岩波書店、2002年、初出1981年）
- 陳国慶著・沢谷昭次訳『漢籍版本入門』（研文出版、1984年）
- 宮崎修多「新収資料紹介②⑤三疋亭集書画帖」『国文学研究資料館報』第29号（1987年9月）
- 田中敏雄「東山第一楼勝会書画帖について」『大和文華』第85号（1991年）
- 武田光一「書画が蒐まる／書画を蒐める — 寄合・蒐集書画帖について」（武田光一責任編集『文人諸家 — 寄合書画帖』江戸名作画帖全集10、駿々堂出版、1997年）
- 『日本古典籍書誌学辞典』（岩波書店、1999年）
- 進藤康子「幕末期月瀬紀行の世界 — 騎鶴楼画帖、梅武書画帖とその周辺から」『江戸文学』第28号 特集・近世紀行文（2003年）
- 仲町啓子「芥子園画伝の和刻をめぐって」『実践女子大学文芸資料研究所別冊年報』第10号（2006年）
- 鈴木淳「谷文晁と『江川家蒐集書画帖』」国文学研究資料館編『古典籍の形態・図像と本文 — 日中書物史の比較研究』（国文学研究資料館、2011年）
- 池澤一郎「画譜の中の漢詩 — 『建氏画苑』を中心に」、中野三敏（監修）・河野実（編）『詩歌とイメージ — 江戸の版本・一枚摺にみる夢』（勉誠出版、2013年）
- 小林宏光『近世画譜と中国絵画 — 十八世紀の日中美術交流発展史』（上智大学出版、2018年）
- 国文学研究資料館 電子展示室「和書のさまざま」（2022年）
<https://www.nijl.ac.jp/koten/webtenji/washosama.html>
- 伊藤紫織『江戸時代の唐絵 — 南蘋派、南画から南北合派へ』（春風社、2023年）
- 王紫沁「建部凌岱の画譜にみる来舶清人 — 十八世紀の和製画譜における「中国」のあり方」『総研大文化科学研究』第19号（2023年）

謝辞

本研究の一部は、以下の助成により実施した。ここに謝意を表します。

- 大学共同利用機関法人人間文化研究機構若手研究者海外派遣プログラム(令和四年度)
- イェール大学 Council on East Asian Studies
- JSPS科研費23H00608(代表者:齋藤 真麻理氏)

資料の調査閲覧に際し、温かいご支援を賜った各所蔵機関の皆様にご礼申し上げます。